

令和4年度 事業報告



社会福祉
法人

長野市社会福祉協議会

目 次

I 総評.....	1
II 主要事業の実績と評価.....	3
III 付属明細書（事業実績等資料）	35

I 総評

新型コロナウイルスの感染が収まらず、人と接することが基本業務である本会にとっては、職員は随時消毒作業を行うなど、細心の注意を払いながら業務を進める必要があり、常に緊張した対応が強いられた1年間であった。

決算は、介護サービス事業において、事業所統合やケアマネージャーの担当件数の増加努力などにより、昨年度の赤字から黒字に転換させたこともあり、当初予算では前期末支払資金残高の充当を見込んで 3,726 万円の赤字を予定していたが、1,563 万円の赤字へと縮小することができた。

法人全体の広報活動は各所属において様々な媒体により情報発信を行ったほか、ホームページのリニューアルについて内部の意見を集約し、準備を進めた。

人材育成など法人の組織基盤強化においては、各所属、担当において必要な研修を実施したり参加したりすることで、より専門性を高めることができた。

総務課では、長野市民生委員児童委員協議会の支援については、改選年度にあたり、3年間の任期中における取組の総括と、新体制の整備を重点的に行った。

また、日赤活動資金募集事業や、共同募金運動協力事業については、コロナ禍の影響により実施出来ない取組もあったが、事業趣旨の理解を図るために、各地区住民自治協議会をはじめ関係者への丁寧な説明を行った。

子どもプランについては、利用を希望するすべての児童を受け入れるとともに、特に配慮を要する児童も、関係機関と連携しながら支援を行った。新型コロナウイルス感染対策を十分に行い、施設内での集団感染の発生は無く、児童の安全な居場所を確保することができた。また、新法人への業務移行に向けて、施設職員を対象としたブロック説明会を開催して新たな運営体制の素案について説明するとともに、館長施設長会及び支援員会等の機会を通して市と意見交換を行った。

地域福祉課では、コミュニティーソーシャルワーカー(CSW)を2名配置し、地区では解決困難な課題の解決に向け、市と協働して社会福祉法人等に呼びかけ地域福祉ネットワーク会議を開催した。また、地区訪問で把握した課題や地区独自の取組を「地区訪問報告書」としてまとめ課題の見える化を図った。

まいさば長野市においては、「アウトリーチ等の充実による自立相談支援機能強化事業」を市から新たに受託しひきこもり者等に寄り添う伴走型の支援を強化することができた。

ボランティアセンターにおいては、「サマーチャレンジボランティア」が、新型コロナウイルス感染警戒レベルの引き上げにより中止を余儀なくされたが、講座等の事業は感染予防の徹底及びZoomの活用等により、概ね実施することができた。

令和元年度東日本台風の被災者支援を行ってきた「長野市生活支援・地域ささえあいセンター」は、応急仮設住宅入居者が0世帯となり、事業を終了した。被災地区における居場所づくりも進み、一定の役割を果たすことができた。

介護サービス課では、作業療法士等の専門職を2名増員し機能訓練の充実を図るとともに、エコバッグ作成や買い物かごの掃除、近隣のごみ拾いなど利用者が住み慣れた地域で役割を持ち、自分らしい生活を継続できるよう支援するなど、利用者の自立支援・重度化防止の取組を進めた。

外国人技能実習生としてインドネシア人2名を受入れ、介護人材確保に努めるとともに、業務の効率化を図るため、オンラインによる会議等の開催や多職種連携情報共有システム等の導入を進めた。引き続き、訪問介護及び通所介護のアドバイザーの指導を受け、業務改善に努めた。

感染症や災害が発生した場合に、サービスが安定的・継続的に提供できるよう事業継続計画(BCP)作成を事業所ごとに進めたり、認知症に関する研修会への参加や、虐待防止検討委員会の設置、感染対策指針や虐待防止対策指針の整備を進めた。

信州新町居宅介護支援事業所と中条居宅介護支援事業所を統合し、経営改善に努めた。積極的に外部の研修会に参加し、誰でも理解しやすい動画マニュアルを作成するなど、個々の職員の資質・能力向上に努めた。

人材確保という大きな課題はあるが、重点目標に対して順調に進めることができた。

新型コロナへの感染防止の配慮は引き続き必要であり、諸物価の値上げは当分続く見通しのため、事業運営には厳しい状況が見込まれるが、更なる経費削減や効率化など創意工夫をおこない対応していく。

Ⅱ 主要事業の実績と評価

○説明

- ・それぞれ所属（担当）ごとに、実施する事業や主要取組とその概要を一覧とした。
- ・「重点」：各所属における重点目標に関係する事業や取組に、●印を記載した。
- ・「新規等」：事業や取組が「新規」、（事業規模の）「拡大」「縮小」のいずれかに該当する場合は記載した。
- ・「種別」：自主事業（補助事業を含む）以外の「受託」「指定管理」「他法人が行う事業への参画（県社協事業など）」の場合は、その内容を記載した。
- ・「総合計画」：それぞれの事業・取組が、令和4年度から開始する第三次総合計画における4つの基本目標のうち、主にどの視点をもって事業・取組を行うのかを示した。（複数選択あり）

相：一人ひとりの思い・困りごとを受け止める、誰もとりこぼさない相談支援

連：地域生活課題の解決に向けて、つながり、つなぎ、結ぶパートナーシップ

参：お互いさまの心をもって、多様な在り方を認め合える参加支援

サ：地域で安心していきいきと暮らし続けられる、地域と一緒に支える活動・サービスの提供

1 法人全体で行うこと

No.	取組・事業名				取組・事業の概要
	重点	新規等	種別	総合計画	
(1)	会務の運営				意思決定や事業執行を行う理事会と議決機関である評議員会を中心に、社会福祉法に基づいた組織として会務を運営する。
				相 連 参 サ	
(2)	第三次総合計画の推進				令和4年度から計画期間を開始する第三次総合計画に基づき、使命を達成するために掲げた4つの基本目標に沿ってそれぞれの事業や取組を推進する。
	●			相 連 参 サ	
(3)	広報・広聴活動				本会の広報及び広聴活動を、広報誌「ふくしながの」等の発行やホームページ、Facebook、YouTubeなどにより行う。令和4年度は法人ホームページのリニューアルを行う。
	●			相 連 参 サ	
(4)	研修の実施・参加				社協職員としての基本的な資質を高めるため、また各事業における専門性を高めるため、全体研修の実施や専門的研修へ参加する。
	●			相 連 参 サ	
(5)	災害想定訓練				職員の防災・危機管理能力の向上及び災害対応マニュアルの内容理解や改善を目的とした訓練を定期的実施する。
				連	

事業実績	資料 頁・No	評価
理事会 5回開催（第1回は書面決議） 評議員会 2回開催 正副会長会 2回開催 評議員選任・解任委員会 1回開催	P35 資料①	会務の運営は、理事会及び評議員会に諮りながら推進し、監事の指導及び監査により執行の適正を期した。
令和4年度からの新たな計画について、全ての職員への周知を行い、法人内部における使命、理念等に関する意識統一の徹底を図った。		進捗状況等の協議には至らなかったため、次年度以降の課題としたい。
・法人全体の広報誌「ふくしながの」を発行し、全世帯に配布したほか、各事業や施設においてパンフレットや広報誌、案内チラシ等を発行した。 ○ふくしながの発行日及び部数 第79号10月1日発行 発行部数158,837部 第80号4月1日発行 発行部数159,082部 ・Facebookを活用し、サービスの状況をPRしたり、各通所介護事業所は毎月広報誌を発行し、営業活動に活用している。また、訪問介護事業所や居宅介護支援事業所でも、チラシやパンフレットを作成し、営業活動を行った。（介護サービス課） ・長野市ボランティアセンター公式LINEアカウントを活用し、ボランティアの情報を発信することができた。（地域福祉課） ・ホームページのリニューアルについて意見を集約し、ホームページリニューアルの準備を進めた。		予定どおり「ふくしながの」を発行したほか、SNS等を活用した広報活動を行い、各事業のPRや情報発信を行うことができた。 ホームページの更新については意見集約に留まったため、令和5年度中の完了をめざす。
法人全体の管理職を対象に「働きやすい職場づくりに関する研修」などを実施したほか、各所属、担当において職員の資質向上のための研修に参加した。	P37 資料②	各所属、担当において必要な研修を実施したり参加したりすることで、より専門性を高めることができた。
消防訓練時に、災害参集体制についての座学研修を実施した。 また、令和元年東日本台風災害での対応及び長野市地域防災計画の改正に伴い、「長野市災害ボランティアセンターの設置に関する協定」の内容を見直し、改めて長野市と協定を締結した。		災害対応マニュアル等を利用するなどして、訓練等を実施している。 災害対応の経験を活かし、協定を改定することができた。

(6)	県内社協職員災害初動時派遣チーム (D S A T) への参加	県内で災害が発生した際の初動対応に備えるため、長野県社協が主導するD S A Tに参加する。
	県社協事業	連

2 総務課（総務担当）

No.	取組・事業名				取組・事業の概要
	重点	新規等	種別	総合計画	
(1)	長野市社会福祉大会の開催				住民の福祉活動に関する意識向上と啓発を目指し、長野市社会福祉大会を開催する。
				連 参	
(2)	ふれあい福祉センター管理経営事業				市有施設の指定管理者として、地域福祉・ボランティア活動拠点であるふれあい福祉センターの管理経営を行う。
			指定管理	参 サ	
(3)	寄付・賛助会費の募集				個人・団体等からの寄付金品及び賛助会員の募集、受け入れ手続き等を行う。
				連 参	
(4)	ふれあい福祉基金の運営				福祉需要の増大及び多様化に対応した事業の推進を図るために設置した本基金の運用及び管理を行う。
				サ	
(5)	ボランティア活動振興基金の運営				自主的で継続的なボランティア活動の振興を図るために設置した本基金の運用及び管理を行う。
				サ	
(6)	社会福祉功労者等の顕彰				長野市社会福祉大会において、社会福祉に功労があった個人・団体を表彰する。
				参	
(7)	職員の労務管理体制の整備				働き方改革に伴う職員勤怠管理体制の整備の一環として、タイムカードの導入を推進する。
	●			サ	

県社協の主導するDSATの活動として、静岡市ボランティアセンターの運営支援にあたった(10月3日～7日)ほか、組織運営に関する検討を行った。 またDSATの活動とは別に、新潟県村上市へ被災地支援ボランティアとして職員4名を派遣した(8月27日)ほか、ボランティアバスを運行して職員を含む17名が現地支援を行った(9月9日)。	P42 資料③	被災地域において、令和元年東日本台風災害での経験を活かした対応や活動を行うことができた。
--	------------	--

事業実績	資料 頁・No	評価
住民の福祉活動に関する意識向上と啓発をめざし、「ささえあいの地域をつくるため 今できることを考える」を大会テーマとして、8月26日に第68回長野市社会福祉大会を開催した。新型コロナウイルス感染拡大予防のため参集範囲を限定し、65名が参加した。	P43 資料⑤	地域の資源や個々の経験を活かして福祉活動を行う方々の参考となる事例発表と講演を行い、概ね好評であった。
新型コロナウイルスの感染警戒レベルに応じ利用人数制限や館内飲食禁止の対応を講じ、感染拡大防止に努めた。	P44 資料⑥	左記の制限等に加え、職員による除菌作業を徹底し、館内での感染拡大を抑えることができた。 また7月以降は制限を解除し、例年並みに多くの方にご利用いただくことができた。
1 寄付の募集 寄付件数 24件 現金受付 1,077,619円 物品受付 419,000円(金額換算) 合計 1,496,619円 2 賛助会費の募集 賛助会員数2名 賛助会費25,000円	P44 資料⑦	1 寄付の募集 前年度と比較し、寄付件数及び金額が減少した。 寄付関連事務処理について滞りなく実施した。 2 賛助会費の募集 会員3名及び1団体に賛助会費納入依頼を行ったところ、会員2名のみからの納入であった。
利息分積立 140,364円 寄付分積立 903,953円 取り崩し額 5,794,470円 ふれあい福祉基金期末残高 176,519,343円		基金の運用を適切に行った
利息(介護者支援事業分) 708,075円 利息(ボランティアセンター分) 614,507円 ボランティア活動振興基金期末残高 313,191,053円		基金の運用を適切に行った
2年ぶりに開催した長野市社会福祉大会において、被表彰者に贈呈することができた。 ○社会福祉功労者 93人(R3 15人) ○優良住民自治協議会等 2団体(R3 2団体) ○社会福祉事業協助者 24件(R3 36件)		地域によって差はあるものの、表彰されることを励みに福祉活動、ボランティア活動を続けているという声もあることから、一定の成果を上げている。
		勤怠管理体制の整備について検討を行ったが、具体的な方策決定は持ち越しとなった。

3 総務課（団体担当）

No.	取組・事業名				取組・事業の概要
	重点	新規等	種別	総合計画	
(1)	社会を明るくする運動推進事業				罪を犯した人たちの立ち直りについて理解を深め、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための啓発活動等を、住民自治協議会の協力により実施する。
				連 参	
(2)	災害見舞金事業				災害による住宅罹災・死亡及び事故による死亡に対して、長野県共同募金会、日本赤十字社長野県支部及び当会の3者による見舞金品の給付を行う。
				相 連 参	
(3)	長野市民生委員児童委員協議会への支援				長野市民生委員児童委員協議会の事務局を受託し、37地区（法定単位）民生委員児童委員協議会の連携・活動推進及び情報交換を図るとともに関係機関・団体等との連絡調整を行う。
	●		団体受託	相 連 参	
(4)	日赤活動資金募集事業				日本赤十字社法に基づき設置された日本赤十字社の長野県支部長野市地区の事務局として、支援者募集及び活動資金収納を行う。
	●		団体受託	連 参	
(5)	共同募金運動協力事業				社会福祉法に基づき長野県共同募金会が実施する寄付金の募集において、長野県共同募金会長長野市共同募金委員会の事務局として事業に協力する。
	●			連 参	
(6)	共同募金配分金事業				長野県共同募金会より配分された配分金を活用した事業を行う。
	●			相 連 参	
(7)	長野市遺族会への支援				長野市遺族会の事務局を受託し、会への支援を行う。
			団体受託	相 連 参	
(8)	長野市手をつなぐ育成会への支援				長野市手をつなぐ育成会の事務局を受託し、会への支援を行う。
			団体受託	相 連 参	
(9)	長野市赤十字奉仕団への支援				長野市赤十字奉仕団の事務局を受託し、会への支援を行う。
			団体受託	相 連 参	

事業実績	資料 頁・No	評価
22地区 補助金交付額323,306円 (R3 22地区 301,148円) 強化月間 7月1日～31日	P46 資料⑨	新型コロナウイルス感染防止対策を徹底し、各地区で実施した。
住宅罹災 19件 380,000円 事故死等 7件 130,000円 計27件 510,000千円 (R3 27件 520,000円) ※県共同募金会及び日赤長野県支部と併せて給付	P47 資料⑩	地区からの申請に基づき迅速な対応を行った。
○理事会8回、役員合同会議1回、地区会長会8回 ○広報誌「民児協ながの」3回発行 ○2月24日(金)全体研修会を実施(735名参加)		改選年度ということで、通常より会議の開催回数も多かった。コロナ禍の影響もそれほど受けることなく、円滑な改選を迎えることが出来た。
○協賛委員会役員会2回、事務担当者会議1回開催、全体会は中止 ○R4実績額 45,384,527円 目標額 57,190,000円(達成率 79.4%) [参考] R3実績 46,574,325円 ○強調月間 5月	P48 資料⑪	年度当初はコロナ禍の影響により全体会は中止となったが、5月の強調月間では感染防止対策を徹底し、各世帯への協力を呼び掛けることが出来た。
○運営委員会は2回、全体会・事務担当者会議は各1回開催。街頭募金は中止。 ○R4実績額 51,722,746円 目標額 56,591,000円(達成率 91.4%) [参考] R3実績 53,071,350円 ○募金運動期間:10月～3月	P48 資料⑫	コロナ禍の影響により、街頭募金は実施出来なかった。戸別募金は依然として減少傾向にあるが、法人募金は比較的堅調である。
R3共同募金実績に基づき、R4実施事業に配分した。 [配分額及び内訳] ○R4配分額(原資:R3募金) 28,060,350円 ○内訳:市社協へ 21,563,968円 住自協へ(目標超過分) 6,496,382円	P48 資料⑬	住民自治協議会や福祉団体等においては、事業の実績が回復傾向にある。配分金を財源とする二次助成の事業を中心に有効に活用できている。
○正副会長会6回、理事会1回、理事評議員会1回、地区会長会3回開催 ○長野市戦没者追悼式への協力 10月26日 長野市芸術館		会員の高齢化が進んでいるが、コロナ禍の影響も徐々に薄れ、定例の会議等も開催することが出来た。
○ブロック長会議・ブロック長支部長会議・役員会議 月1回開催 ○学習会3回開催(6月21日、8月9日、2月14日) ○希望の旅 9月10日 下諏訪・岡谷方面 ○療育キャンプの開催 10月8日～9日 聖高原 ○関東甲信越ブロック長野大会への協力 ○親なきあと相談室の開催 ○機関紙「いいづな通信」発行		感染防止対策を徹底し、学習会や希望の旅、療育キャンプを開催することが出来た。お互いの悩みや課題を共有し、共感したり課題解決の糸口を見つける機会となった。
○正副委員長会3回、委員会6回開催 ○市社協フードドライブへの協力(16分団) ○視察研修 11月8日～9日 愛知県岡崎市赤十字奉仕団		コロナ禍の影響により実施できない事業もあったが、市全体での活動、各分団での活動が少しずつ通常の状態に戻りつつある。生活困窮者へのフードドライブへの協力等、可能な範囲での活動が実施出来た。

(10)	長野地区保護司会への支援				長野地区保護司会の事務局を受託し、会への支援を行う。
			団体受託	相 連 参 サ	
(11)	長野地区更生保護女性会への支援				長野地区更生保護女性会の事務局を受託し、会への支援を行う。
			団体受託	相 連 参 サ	

4 総務課（子どもプラン担当）

No.	取組・事業名				取組・事業の概要
	重点	新規等	種別	総合計画	
(1)	児童館・児童センター・放課後子どもプラザの管理経営事業				長野市から指定管理者の指定及び委託を受け、児童の健全育成を図るとともに就労家庭を支援する児童館等の管理経営を行う。 長野市の方針に従い、放課後子ども総合プラン事業の移行準備を支援する。
	●		受託・指定管理	サ	

○正副会長会 5 回、理事会 6 回開催 ○全体研修会 2 回開催（5 月 11 日、2 月 13 日） ○社会を明るくする運動への協力 ○協力組織との連携 ○機関紙「いいづな」2 回発行		事務局とサポートセンターとの連携を密にし、引き続くコロナ禍においても保護司会活動の運営を充実させた。
○理事会 2 回、会長会 5 回、三役会 7 回開催 ○全体研修会 2 回開催（4 月 20 日、1 月 24 日） ○社会を明るくする運動への協力 ○機関紙「さくら草」7 回発行		会議・研修等も予定通り開催することが出来た。各地区での社会を明るくする運動も通常の実施状況に戻りつつある。

事業実績	資料 頁・No	評価
○利用者数 児童館(4館)・児童センター(30館) 登録児童数 3,131人 (R3 3,357人) 年間延べ利用児童数 466,459人 (R3 503,536人) 子どもプラザ(48施設) 登録児童数 4,969人 (R3 4,630人) 年間延べ利用児童数 514,896人 (R3 514,054人) ○利用を希望する特別な配慮を要する児童は全て受け入れ対応している 加配児童数 158人 (R3 199人) ○職員研修 5回実施 研修会の録画配信 (YouTube配信) 3回 ○新法人への業務移管に向けた職員説明会 館長施設長会、支援員会での説明 7回 ブロック別説明会 11回 (出席者 741人) 希望した8ブロックでの個別説明会	P48 資料⑭	利用を希望する児童を受け入れることができた。 職員研修では、当日参加できない職員に対し、録画配信 (YouTube配信) を行い、より多くの職員が研修に参加することができた。 新法人への業務移管に向け、職員に対する説明会を実施し、新法人での勤務体制等について意見交換をし、移行に向けた課題整理を行った。

5 地域福祉課（地域福祉担当）

No.	取組・事業名				取組・事業の概要
	重点	新規等	種別	総合計画	
(1)	住民自治協議会と協働による福祉のまちづくり				職員の担当する地区を決めて関わることで、各地区のニーズに関する調査・研究からニーズに即した支援を行うほか、住民自治協議会と協働で事業の企画・立案に携わる。また、地区地域福祉活動計画の見直し及び進捗管理の支援を行う。 なお、住民自治協議会役員との顔の見える関係を構築し、地区課題を共有する中で、具体的な支援を行うため地区訪問を行う。
	●			相 連 参	
(2)	福祉のまちづくりを進めるための実践事業				住民自治協議会が行う福祉活動（福祉移送、サロン、子育て支援等）に対して、課題や活動の種別に即して共同募金等を財源に経費の助成を行う。 また、地区の独自課題の解決に向けた動きに対しても助成することで、その地区独自の課題解決に即した支援を行う。
				連 参	
(3)	住民自治協議会福祉関係部会への支援				住民自治協議会福祉関係部会への支援のため、各地区の役員を対象に情報交換を行い、各地区の状況や取組の共有を行う。 また、事務担当者会議を開催し、本会の支援内容についての伝達を行う。
				相 連 参	

事業実績	資料 頁・No	評価
1 職員の派遣による地域支援 派遣件数 381件 (R3:262件) 内訳 福祉計画 87件 (R3:52件) 検討会 57件 (R3:38件) 福祉推進員 42件 (R3:19件) たすけあい事業の再編 67件 (R3:58件) その他 128件 (R3:95件) 2 地域福祉活動計画の策定（見直し）への支援 8地区（吉田、朝陽、芋井、篠ノ井、七二会、豊野、戸隠、大岡） 3 地区訪問による支援 27地区（R3:9地区） 福祉政策課、地域包括ケア推進課と合同で実施し、把握した課題や地区独自の取組を「地区訪問報告書」としてまとめ課題の見える化を図り配布した。		地区地域福祉活動計画策定、福祉推進員研修、検討会などへの事前の打合せを含め地区へ訪問し支援することで、住民自治協議会福祉担当部会をはじめとした地区の関係者との顔の見えるつながりを築くことができた。 ただ、職員の派遣については、地域福祉活動計画策定などコンスタントに会議等がある場合は継続的に支援することができたが、単発支援等で終わる地区もあり、支援に差が生じた。
申請額 22,461,000円 交付額 15,352,590円	P52 資料⑮	新型コロナウイルス感染症の長期化により、各地区において計画された事業が実施できず、申請額に対し交付額が減少した。 しかし、事業が実施されず地域福祉活動の停滞が懸念される中、飲食が伴うサロンができなかったが、地区によっては、「お手紙大作戦」や一人暮らしの高齢者訪問など工夫して地域福祉活動がされていた。
1 住自協福祉関係部会担当者会議 開催：5月12日（木） 場所：ふれあい福祉センター 参加者：28名（25地区） 内容：必須事務・選択事務の説明 2 住自協福祉関係部会情報交換会 (1) 日時：9月26日（月） 場所：長野市ふれあい福祉センター 参加者：25名 内容：テーマ「さらに深堀り 地域の担い手」 第1部 地区の事例紹介 篠ノ井地区、七二会地区、信更地区 第2部 情報交換会 (2) 日時：2月17日（金） 場所：長野市ふれあい福祉センター 参加者：59名 内容：テーマ「自分たちだけの活動だけで終わらせ ないつながりづくり」 ～地域共生のまちづくりはじめてみませんか？～ 第1部 ミニ講座「今さら聞けない“地域共生”基本のキ」 講師：淑徳大学学長 山口光治氏 第2部 実践レポート「つながり・学び・支え合う、 の現場から」 実践報告者 ・柳町介護サービスセンター 中村久子係長 ・第三地区住民自治協議会 浅倉信事務局長 ・朝陽地区 西村恵里氏（長命寺）、近藤宏美氏 （地域たすけあい事業コーディネーター） ・ボランティアグループあもはぐ 白石香代表		福祉関係部会に関連する当会の各担当者から必須事務・選択事務などについて説明することにより、事業について理解をしていただくとともに地区の担当者との顔の見えるつながりづくりができた。 また情報交換会では、地域の中の担い手について共有を図ることや、地域共生社会について理解を深めてもらうことができた。

(4)	地域福祉ワーカー連絡調整会議等の開催 ● 拡大 相 連 参 サ	地域福祉を推進する担い手として各地区に配置されている地域福祉ワーカーの活動への助言などを行う。
(5)	地域たすけあい事業の実施及び再編検討 ● 拡大 相 連 参 サ	高齢者、障害者等に対して、地域住民の協力を得て有償による家事援助及び福祉移送サービスを行う事業。令和4年度に全地区財源移行を実施する。
(6)	福祉推進員への支援 連 参	住民自治協議会が設置する福祉推進員を対象に、福祉推進員の役割等の基礎的事項について活動事例などを通して学ぶ機会を設ける。 また、活動事例や基本的事項を冊子にまとめて配布・共有することで、福祉の現場に必要な知識や他地区の事例等を広める。
(7)	信州暮らしの支え合いネットワークへの協力、参加 他法人事業 への参加 連 参	県内の住民参加型有償在宅福祉サービスを行っている団体により組織されている連合会（長野県社会福祉協議会が事務局）へ協力・参加する。
(8)	配食サービス事業（鬼無里地区） 市受託 サ	食事づくりが困難な高齢者や障害者への昼食の配達を行う。

長野市福祉政策課主催の会議に、地域包括ケア推進課とともに企画から参加し、地域福祉ワーカーの活動への助言などを行った。 第1回 4月25日（月） 近隣市町村の生活支援コーディネーターの動きと今年度各地域福祉ワーカーが力を入れる取り組みについて情報交換 第2回 6月6日（月）・7日（火）・8日（木）・10日（金） 第1回の深掘り（課題となっている背景他） 第3回 9月6日（火）・7日（水）・8日（木）・9日（金） 第1回の課題を受けて解決策を検討 第4回 11月29日（火）・30日（水） 地域福祉ネットワーク会議を兼ね、地区を越えた課題の解決策の模索 第5回 2月3日（金） 1年間の振り返りとして、自身の変化や地域の変化、来年度に向けた地域づくりの目標と、その実現に向けたサポートの必要性をグループワークにて実施 ※第2回、3回はブロックに分けて、第4回は北部と南部に分けて開催した		長野市福祉政策課、地域包括ケア推進課と合同で企画・実施することで、第四次長野市地域福祉課計画で見える化した地域福祉ワーカーの「地域の困りごとを解決につなげるお手伝い役」となるよう支援し、スキルアップを図ることができた。 また地域福祉ネットワーク会議を兼ねて開催することにより、地区を越えた課題の解決策について模索することができた。
○市内31地区（25事業所）で実施した。なお、新型コロナウイルス感染症の第6波から第8波においては、各地区の状況に応じて運行の休止をした。 実施件数 33,204件（R3:30,935件） 家事援助 6,022件（R3: 4,988件） 福祉移送 27,182件（R3:25,947件） ○財源移行については、11月末に全地区で完了した。また事業の再編については、鬼無里地区が12月から実施し、信更地区では検討をしている。 ○地域たすけあい事業コーディネーター定例会 年12回開催	P52 資料⑩	福祉移送は本部で休止基準を設けることで地区における判断の目安を示すとともに、家事援助は援助内容や緊急性を個別に判断しながら、感染防止対策が取れるケースについては対応することにより、コロナ禍においても活動することができた。 また財源移行に併せた事業の再編については、既に実施している4地区（小田切、七二会、戸隠、中条）に加え、本年度は信更地区と鬼無里地区で検討を行い、鬼無里地区では12月から実施することができた。
○地区別研修 21地区（R3:18地区） ○全体研修 長野市地域福祉推進セミナーに併せて実施。 ○活動事例集の作成 長野市地域福祉推進セミナーに併せて作成。		行政連絡区単位の身近な範囲で行うと共に、事前に地区へ訪問し福祉推進員のニーズを踏まえて実施することにより、福祉推進員の役割をお伝えするなど有意義な研修ができた。 また福祉推進員を設置しているほとんどの地区から事例の提出があり冊子にし配布するとともに、本会ホームページでも掲載することができた。ただ前年度同様コロナ禍であり長野市地域福祉推進セミナーの会場での掲示は実施できなかった。
9月15日（木）※今年度はZoomで開催 職員3名参加		他地域、他団体が実施している住民参加型有償在宅福祉サービスについて、情報交換できたが、対面式の方が分かりやすい。
鬼無里地区で実施。 1,389食、延べ104人（R3:1,388食、延べ116人）		本当に必要としている方が減っている中、市地域包括ケア推進課と一緒に民間企業による配食サービスの検討が必要と考える。

(9)	長野市地域福祉推進セミナーの開催	長野市地域福祉計画に基づき、市民、福祉関係機関、行政等が一同に会し、地域福祉の推進に関する事柄について学び、意見交換を行う。
(10)	老人福祉センター管理経営事業	高齢者の健康増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を提供することや、地域における福祉活動の場を提供するとともに、生きがいをづくり講座を開催し高齢者の生きがいや余暇活動の促進を図ります。また、自身の介護予防のため、健康づくり等の介護予防関連事業を行います。
(11)	公共交通バス受託事業（大岡地区）	高齢者や子ども等の移動手段を確保するために、市が所有する車輛3台（愛称：「ハッピー号」）を活用し、大岡地区内及び一部信州新町地区への送迎を有償にて行っている。

日時：6月17日(金) 13:30～16:00 場所：若里市民文化ホール 参加者：168人 第1部 パネルディスカッション 内容 各地区で行われている小さな支え合いに焦点を当て、活動者への思いの掘り下げやその意味を改めて評価するとともに、第四次長野市地域福祉計画や国の進める地域共生社会における位置づけを明確にした。 ・コーディネーター 内山二郎氏（長野県長寿社会開発センター理事長） ・コメンテーター 徳永雄大氏（長野県社会福祉協議会） ・パネリスト 芝波田英二氏（穂保希望のつどい実行委員会） 土屋栄美子氏（〃） 横川眞利子氏（浅川地区ボランティア） 宮澤さと子氏（〃） 山本みずほ氏（浅川地区地域福祉ワーカー） 古川晴雄氏（朝陽地区桜新町元区長） 第2部 会場セッション 内容 会場全体で旗揚げアンケートを実施。アンケート結果をその場で集計するとともに、会場の参加者にもマイクを向け、参加者一人ひとりの思いを共有した。		「福祉の担い手」という意識を持たずとも、地域では小さな支えあい、助け合いが行われており、だれもが担い手であり、助けられる側という地域の中の担い手について共有を図ることができた。
指定管理制度の指定管理者として以下の通り実施した。 ○三陽・安茂里・氷鉋・鬼無里・中条 ※氷鉋老人憩の家含む (令和4年度～令和8年度の5年間の指定管理者) ○信州新町福祉センター管理事業 (令和3年度～令和7年度の5年間の指定管理者) ○生きがいづくり講座実施回数 1,209回 (R3:807回) ○介護予防関連講座実施回数 93回 (R3:51回)	P52 資料⑰	フレイル予防の観点から令和元年度から取り組んでいるディスコ講座を今年度も実施することができた。ディスコ大会については、新型コロナウイルス感染症状況に鑑みて、各老人福祉センターでの開催となったが、併設の介護施設利用者も参加する形となり、大変好評であった。 また、安茂里では「聞いて得する講座」と題し、包括支援センターについてや成年後見制度・遺産相続など、高齢者の気になるポイントに対し講座を開催し、講座終了後も参加者より質問が相次ぐなど、高齢者のニーズにこたえられる講座内容を実施することができた。
1 運行日数 241日 (R3: 244日) 2 運行便数 3,753便 (R3:4,584便) 3 利用者数 6,554人 (R3:8,170人)		所長・コーディネーター・運転手による定期的なミーティングを行うことにより、大きな事故がなかった。 また、コロナ感染対策を徹底した中で発症者を出さないで運行ができた。

(12)	第四次長野市地域福祉計画の推進	長野市の地域福祉施策のあり方について市民の意見や有識者等からの専門的な知識を反映させるため、長野市が設置している長野市社会福祉審議会地域福祉専門分科会へ参加するほか、長野市地域福祉計画の進行管理・評価を行うため、長野市が市民・福祉関係機関等により組織した推進会議及び市内推進会議への出席・事務局的作用を担う。
(13)	介護者支援・交流事業	在宅で介護している介護者を対象に、心身のリフレッシュを図ることを目的として、宿泊もしくは日帰り形式による交流事業を行うほか、短時間（2～3時間）で、日頃の介護に対する思いなどについて話し合う場を老人福祉センターごとに開催し、介護者の相談や仲間づくりにつなげる。
(14)	孤立防止活動の推進	孤立を見逃さない地域づくりに向け、市と協働し取り組んでいる「孤立防止・見守りネットワーク事業」を推進するとともに、地域の福祉関係者である住自協役員や民生委員・児童委員、福祉推進員等へ孤立防止に向けての意識啓発への働きかけを行う。
(15)	コミュニティ・ソーシャルワーカー（CSW）の配置	地区担当では解決できない地域のニーズや課題に対して一緒に関わるCSWを市内2名配置する。また、長野市福祉政策課及び地域包括ケア推進課と連携し地区へ訪問をする中で、地域課題についても分析し地域とともに取り組み、地域づくりを個の課題から地域課題に取り組めるよう仕掛け・支援を行う。

1 長野市社会福祉審議会地域福祉専門分科会 長野市福祉政策課が事務局となるが、社協からも課長・主幹・係長・担当が事務局の立場として出席した。 開催日：2月7日（火） 2 第四次長野市地域福祉推進会議 長野市福祉政策課が事務局となるが、社協からも課長・主幹・係長・担当が事務局の立場として出席した。 開催日：2月1日（水） 3 長野市地域福祉庁内推進会議 関係課として課長が出席 開催日：2月7日（火）※書面開催		事務局の立場として、長野市福祉政策課と連携した取り組みができた。
1 在宅介護者リフレッシュのつどい 新型コロナウイルスへの感染リスクを避けるため、参加者には旅行前2週間の健康管理やワクチン接種済証コピーの提出を依頼したり、当日のバス乗車人数を定員の半数以下にする等の感染予防対策を徹底して実施した。 [宿泊コース] ○期日 10月6日（木）～7日（金） ○行先 長野県松本市 美ヶ原温泉 ○参加者数 38人 [日帰りコース] ○期日 10月14日（金） ○行先 長野県諏訪市 上諏訪温泉 ○参加者数 11人 2 介護者のつどい 介護者相互の連携を促進するため、短時間の交流事業を、本会が指定管理を行っている老人福祉センター等で開催した。 ○実施回数 14回（5会場）（R3: 6回（6会場）） ○延べ参加者数 28人（R3: 25人）		在宅介護者リフレッシュのつどいについては、コロナ禍での開催にあたり宿泊、日帰りとも県内での旅行とした為か、参加人数が例年より少なかった。ただ参加者からは「ゆったりとリフレッシュできて良かった」との感想が多く聞かれた。また『信州割スペシャル』の対象となり参加者へクーポン券が配られ好評であった。 介護者のつどいについては、時間に追われる介護者が自身のタイミングで寄って一息つきながら気軽に相談できるように、中条老人福祉センターでは第一木曜日に終日開催としたが参加者の微増に留まった。 参加者数の状況から、介護者支援のあり方について検討が必要である。
各地区福祉推進員研修会、長野市地域福祉推進セミナー、住自協情報交換会において、孤立防止に向けての意識啓発を行った。 なお、「長野市孤立防止・見守りネットワーク協議会」（市主催）は、本年度は開催されなかった。		地域福祉推進に係る各事業において、孤立防止活動の推進を行うことができた。
本年度は2名で配置（兼務）し、長野市福祉政策課及び地域包括ケア推進課と連携し、主に下記の事業を実施した。 1 地域福祉ワーカー連絡調整会議 企画から参加し、地域課題に取り組めるような仕掛け支援を図った。 2 地区訪問 住民自治協議会の会長をはじめ役員の皆様と課題を含めた地区の状況等について意見交換を実施し、把握した課題や地区独自の取組を「地区訪問報告書」としてまとめ課題の見える化を図り配布した。 3 地域福祉ネットワーク会議 地域福祉ワーカー連絡調整会議に併せ地域福祉ネットワーク会議を開催し、「資源共有単位」での地域福祉ワーカーと社会福祉法人のつながりづくりを行った。		長野市福祉政策課、地域包括ケア推進課と連携して地域福祉ワーカー連絡調整会議や地区訪問を実施することにより、地域福祉ワーカーに対する研修会や住自協役員とのコミュニケーションを図ることができ、地域福祉の推進に取り組むことができた。

6 地域福祉課（生活あんしん担当）

No.	取組・事業名				取組・事業の概要
	重点	新規等	種別	総合計画	
(1)	長野市成年後見支援センター事業				成年後見を適切に利用するため専門相談窓口を開設し、相談から調整・申立支援等を総合的に行う。
			市受託	相	
(2)	法人後見事業				本会が長野家庭裁判所から選任された成年後見人等になり、判断能力が不十分な人への支援を行う。
				サ	
(3)	「おひとりさま」あんしんサポート事業				意思決定が可能な身寄りのない自立した高齢者が抱える様々な不安を解消するため、身元保証や日常の財産管理及び死後の葬儀・財産の処分等の事務といった様々な問題についての相談を受けるとともに、任意後見制度及び関連する諸制度が適切にかつ安心して利用できるように必要な支援を行う。 [拡大]重点目標に掲げている「入院・入所ガイドライン」策定を市と共に取り組む他、相談体制の強化、関係機関との連携強化を図るため体制を強化する。
	●	拡大	市受託	相	サ

事業実績	資料 頁・No	評価
1 後見ネットワーク推進事業 ○各機関が主催する成年後見制度に関する研修会へ職員を講師として派遣。⇒延べ10回 ○チラシを作成し、長野市、信濃町、飯綱町及び小川村の障害者相談支援事業窓口や地域包括支援センター窓口へ配布し、事業の周知を図った。 2 専門相談・利用支援事業 ○相談対応件数 2,403件 (R3:2,279件、R2:2,542件) ○専門職調整委員会の開催 12回 3 後見活動支援事業 ○成年後見制度利用促進会議を市と共同開催し(6/9)、信濃町、飯綱町、小川村及び各町村社会福祉協議会と今後の各町村における利用促進の方針と市民後見人の養成、法人後見事業への取り組みに関する展望に関して意見交換を行った。 ○成年後見制度活用を検討されている来庁者及び親族で成年後見人等に就任された親族後見人への周知について、長野家庭裁判所と連携を図った。 4 市民後見推進事業 ○第2期長野市市民後見人養成講座の実施 ・オリエンテーション(説明会)の開催 参加者 72名 ・市民後見人養成講座(基礎研修) ※令和4年10月～12月 全7日間 応募者 30名、受講決定者 20名 受講者 20名、修了者 19名 ・市民後見人養成講座(実務研修) ※令和5年1月～ 登録者 14名 ○法人後見支援員設置事業(実務研修) 第1期長野市市民後見人養成講座(平成30年度実施)及び第2期養成講座修了者の内、実務研修の受講を希望した27名をパート職員として雇用し、法人後見事業の実務を経験させた。	P53 資料⑱	○新型コロナウイルス感染の影響により、訪問による面談を著しく制限せざるを得ない状況下が断続的に続いたものの、面談場所を換気の良い場所等に設置するなどの工夫により前年度比で増加した。 また、上水内郡の3町村についても、2年目ということもあり認知がされてきたこともあり前年度の29件から63件へ増加した。今後においても該当町村と連携して更なる周知を図る必要がある。 ○市民後見推進事業について、第1期養成講座とは異なり、上水内郡3町村も対象とした養成講座の実施となったが、円滑に実施することができ、住民参加を制度の利用促進を図ることができた。
新規受任件数 ○後見 9件 (R3:12件) ○保佐 4件 (R3:4件) ○補助 0件 (R3:0件) ○任意後見等 3件 (R3:0件)	P53 資料⑲	受任している法定後見等業務について、監督者である長野家庭裁判所からも指摘はなく、目標通り安定的な事業運営を行うことができた。
1 任意後見制度利用促進業務 ○チラシを作成し関係機関(地域包括支援センター等)へ配布した。 ○地区民生児童委員協議会への説明を昨年度延期となっていた6地区に実施しチラシ及び資料により事業の説明を行った。 2 身元保証・財産管理・死後事務相談業務 ○相談対応件数 1,392件(新規247件、継続1,145件) 3 任意後見制度等利用支援業務 ○任意後見契約受任者等の受任調整の一環として、市内・近郊の専門職等との業務提携協定を締結。 ・司法書士 12名(1法人含む) ・行政書士 11名(1法人含む) ・NPO法人 1法人 4 身寄り問題サポートネットワーク業務 ○「入院・入所ガイドライン」については、令和4年度は、令和5年度以降の策定委員会・作業部会を組織化するため、推薦団体や病院や施設等へ説明を行った。 ○市担当課(地域包括ケア推進課)、権利擁護センターで協力し、策定作業部会会員予定者を招集した「身寄りのない方への支援の在り方ガイドライン(長野市版)づくり勉強会」を令和5年2月28日に実施した。	P53 資料⑳	令和3年10月1日の相談室開設以来、市民からの相談に対応してきた。前年度、令和3年度10～3月508件(新規156件、継続352件)と比較すると増加した。 任意後見制度利用支援では、司法書士会及び行政書士会に所属する会員並びにNPO法人との業務協定を行政書士は4名(1法人含む)追加して締結し、制度の活用の推進体制を構築することができた。 [拡大]重点目標に掲げている「入院・入所ガイドライン」策定については、令和5年度から開催予定の策定委員会・作業部会出席のため、各関係機関に推薦依頼や説明など連携強化を市と協力しながら準備することができた。

(4)	日常生活自立支援事業	認知症高齢者等の判断能力が不十分な方に対して、日常的な金銭管理や預貯金通帳等の預かりを行う。（社会福祉法に定める第2種社会福祉事業）
	県社協受託相	サ
(5)	暮らしのあんしんサービス事業	判断能力はあるが、単身高齢者等で金銭管理等の不安がある方に対して、日常的な金銭管理や預貯金通帳等の預かりを行う。
		相サ
(6)	地域福祉課みなみ出張所運営事業	地域福祉課の出張所を篠ノ井地区に設置し、主に南部地域における日常生活自立支援事業、暮らしのあんしんサービス事業、生活福祉資金貸付事業の相談者、利用者の支援を行う。
		相
(7)	長野市生活就労支援センター“まいさぽ長野市”の運営事業	就職や住まい、家計管理などの困りごとや不安を抱えている方（世帯）に対し、相談支援を行いながら個々人の状況に応じ必要な制度、サービスにつなぐ。また関係機関とのネットワークづくりや不足する社会資源等の開発に取り組む。 令和4年度について、新規事業として「アウトリーチ等の充実による自立相談支援機能強化事業」を市から受託し、ひきこもり等の社会参加に向け、より丁寧な対応を必要とする方への支援を強化する。
	● 拡大 市受託 相連参サ	
(8)	生活福祉資金貸付事業	県社協からの委託を受け、低所得世帯等に対し、相談援助を実施しながら、世帯の自立助長を目的に必要な資金の貸付を行う（第2種社会福祉事業）。 令和4年度について、令和4年1月から生活福祉資金の年齢要件が撤廃されたこと、令和4年3月末で年金担保貸付制度が廃止になることから、生活福祉資金貸付のうち、福祉費の相談件数が増加することが見込まれる。
	拡大 県社協受託相	

認知症高齢者等の判断能力が不十分な方に対して、日常的な金銭管理や預貯金通帳等の預かりを行った。（社会福祉法に定める第2種社会福祉事業） 長野県社会福祉協議会と契約し基幹的社会福祉協議会として、長野市、信濃町、小川村を対象エリアに事業を実施した。 ○契約件数 200件（R3:196件）	P53 資料②①	今年度においても複雑・複合的な課題を持った世帯からの相談については、生活あんしん担当による「総合相談カンファレンス」において、課題を整理し、アセスメントから必要なニーズにつなぐことができた。 一方で、狭間のケースで契約に結びつかないケースについて、社協として見守り寄り添い続けていくには本事業では限界があり、今後の課題である。
判断能力はあるが、単身高齢者等で金銭管理等の不安がある方に対して、日常的な金銭管理や預貯金通帳等の預かりを行った。（長野市社協独自事業） 長野市の補助金により実施した。 ○契約件数 43件（R3:37件） ○相談者実数 385人（R3:302人） ○延べ相談実数 3,060件（R3:2,238件）	P54 資料②②	昨年度同様、身寄りがなくこれまで契約が出来なかったニーズに対して事業契約に結びついたことで生活の安定を図ることが出来た。また、高齢化等の影響により、相談件数契約件数ともに前年度を上回る実績であった。特に契約に関しては、平成13年度事業開始以降最大の契約数となった。 判断能力はあるが身体的理由により外出が困難といった、日常生活自立支援事業では対象とならない方を補完する事業として継続の必要がある。
○南部地域を中心に相談を受け、日常生活自立支援事業および暮らしのあんしんサービス事業への契約、支援を実施した。 新規契約数 12件（R3:16件） ○生活福祉資金貸付事業の相談受付、対応を実施した。		相談件数増加に伴い、相談受付時から各関係者と連携することにより、短期間で新規契約することができた。 生活福祉資金貸付事業等の相談に対し、初期の聞き取りから本部貸付担当へ相談がスムーズに繋げることができた。
○令和4年度においては、平成27年度から実施している生活困窮者自立相談支援事業、家計改善支援事業、就労訓練支援事業の他、新規事業としてアウトリーチ等を通じた自立相談支援機能強化事業、自立相談支援の機能強化事業を実施。 ○令和4年度の延べ相談件数は対前年比約1.02倍の16,248件となり、過去最大の相談件数となった。	P54 資料②③	○新規事業を実施することで、ひきこもり等の社会参加に向け、より丁寧な支援を必要とする方への支援や、特例貸付利用者のフォローアップ支援を行うことができた。 ○認定就労訓練事業について、新規で3事業所が認定就労訓練事業所の登録となった。
○令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響による減収、失業を理由とする生活費の不足に対し一時的に生活費を貸付する生活福祉資金特例貸付を9月末日まで実施。 ○特例貸付については、令和2年3月25日の受付開始から延べ10回の期間延長を経て令和4年9月30日で終了となった。 計3,524件、1,135,112,000円の貸付を行った。	P56 資料②④⑤	令和5年1月から特例貸付の償還が始まり、まいさば長野市と連携したフォローアップ支援を行うことで現在も生活に困窮されている方等の早期支援、伴走型支援につなげることができた。

○本部（毎週火・金曜日）、篠ノ井（毎週月曜日）に相談窓口を開設した。	P56 資料⑳	コロナ禍もあり、日常生活のなかで他者と交流する機会が減少していることもあり、相談件数は増加傾向にある。地域で孤立していたり、孤独を抱える方等の市民に寄り添うよろず相談窓口としての役割を果たすことができた。
○月 1 回弁護士による法律相談を実施した。		相談件数は前年度から減少となったが、本会で実施している相談事業とも連携することで、必要な支援につなげることができた。
○毎週水曜日に書道及びちぎり絵、隔週金曜日に居場所のデイケアをそれぞれ実施した。	P57 資料㉑	新規事業であるアウトリーチ等を通じた自立相談支援機能強化事業の担当とも連携し、相談だけではなく、居場所としての機能や、他者との交流機会の確保、就労訓練の場など、広く本事業を活用した支援を行うことができた。
○令和 4 年度においては、令和 6 年度の事業の本格実施に向けた移行準備として多機関協働事業を実施。		○相談支援の観点からは、庁内関係課、庁外関係機関との会議や意見交換を通じてある程度事業のフローや相談支援体制について議論することができ、一定の方向性を示すことができた。 ○地域づくりの観点からは、CSW を配置し事業を展開していくことを確認したが、具体的な内容やフローまで議論することができなかったため、引き続き関係課等との議論を深めていく必要がある。
○生活支援相談員を17名配置し、仮設住宅等で生活する被災者を戸別訪問して見守るとともに、市や関係機関等と連携して日常生活や生活再建に向けた相談支援を実施した。 ○被災者が地域に戻ってからも安心・安全に生活できるよう復興に向けたコミュニティ支援、災害公営住宅に入居した住民が孤立せず、安心して生活ができるようサロンによるつながりづくりを実施した。 ○ささえあいセンター終了に伴い、豊野地区に建設された災害公営住宅等、再建後も見守りが必要な世帯は関係機関等へつなぎ、支援が途切れる事のないよう支援を行った。 ○国庫補助事業「被災者見守り・相談支援事業」を市から受託。令和 5 年 3 月末で受託終了。 支援件数 2,943件 サロン実施実績 2カ所で98回実施。延べ1,152人が参加	P57 資料㉒	○市と連携して住宅再建の支援を行うことにより、令和 4 年10月末で応急仮設住宅入居者は0世帯となり、再建が完了。 ○災害ボランティアセンターから関わり、ささえあいセンターの訪問やサロン活動により、被災者、地域との関係を築くことができた。復興に向けての支援はまだ必要という意見もあり、事業終了後も、既存事業での関わりの継続が必要である。

7 地域福祉課（ボランティア担当）

No.	取組・事業名				取組・事業の概要
	重点	新規等	種別	総合計画	
(1)	ボランティアセンター運営事業				地域住民のボランティア活動に関する理解と関心を深めるとともに、その育成援助を行うことによりボランティア活動の振興を図る。また、センターの適正な運営を図るためボランティアセンター運営委員会を開催する。
				相 連 参 サ	
(2)	ボランティアの登録・相談・連絡・調整・紹介				ボランティアを「したい人」「頼みたい人」等に関する様々な情報を収集整理し、コーディネートを行う。
				相 連 参 サ	
(3)	寄託金品の受け入れ・活用、機材貸出、会場の提供				寄託金品等の受け入れと活用を図るとともに、ボランティア活動の支援のためボランティア活動等に必要な機材の貸出、会場の提供を行う。
				連 参	
(4)	ボランティア活動に関する啓発・普及・広報・情報提供				ボランティアに関する情報をより多くの市民が多様なツールでアクセスできるようボランティアに関する情報を収集するとともに、情報紙、ホームページ、LINE公式アカウント、YouTube、街中掲示板等を通じて、市内外へボランティア情報を発信する。
				連 参 サ	

事業実績	資料 頁・No	評価
1 ボランティアセンター運営委員会 4回実施し、課題の整理と検討を行った。 第1回5月25日(水)、第2回8月5日(金)、 第3回11月9日(水)、第4回2月8日(水) 2 ボランティア活動振興事業助成金事業 ボランティア活動を振興し地域福祉の推進を図るため、ボランティア・市民活動をしているグループが実施する事業に対して1団体5万円を上限に助成を実施した。 2団体 総額 80,000円を助成 3 ボランティアのつどい ボランティア・市民活動グループ等が日頃の活動紹介や交流を行うことにより、お互いの活動を知る機会とするとともに、市民がボランティア活動に触れ、理解を深める場として実施する事業。 ボランティア及び職員で実行委員会を組織し、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から申込制の会場参加とオンライン(ZoomまたはYouTube)参加を併用し開催した。 (1)日時 3月5日(日)13:00~16:30 (2)参加方法 会場またはオンライン参加 (3)テーマ 100年未来 ボランティアスクール ～いきいきと この街で～ (4)内容 ・ボランティアグループ活動紹介 ・みせて!マイコミュニティ(地区紹介) ・100年未来への一歩(レッツ トーク) ・想いをひとつに(ライブペインティング) (5)参加者 会場参加 53名、Zoom参加 23名 YouTube視聴 428名 計 504名	P58 資料㉑	年4回運営委員会を実施することにより、ボランティアセンター事業の適正な運営に資することができた。 ボランティア団体へコロナ禍における活動の提案・助成金の活用推進により、新たな活動が起こり、その後も継続的に活動するようになった。 ボランティアのつどいは、ICTの活用によりボランティア活動に触れ、理解を深める場にする事ができた。
○センター登録団体 427団体(R3:450団体) ○相談件数 7,042件(R3:7,642件)		コロナ禍で活動に制約がある中ではあったが、ボランティアに関する様々な情報を収集整理し、情報の提供や需給調整(コーディネート)を行い、ボランティア活動の振興を図ることができた。
1 ボランティア活動資機材の貸し出し 車椅子 57件(170台) アイマスク 3件(107枚) 白杖 6件(93本) 点字版 4件(59枚) コピー機 477件 印刷機 379件 その他 125件	P59 資料㉒	寄託金品の受け入れと活用、機材の貸し出しを行いボランティア活動の振興を図ることができた。
1 ボランティアかわらばんの発行 毎月1回(1,2月号は合併号のため年間11号)6,000部発行 2 街中掲示板の設置 各地区住民自治協議会、老人福祉センター、協力企業等市内40ヶ所に設置 3 LINE公式アカウントの開設 登録数 606件(R4 266件)		従来の紙媒体による広報・情報提供に限らず、LINE等のICTを活用し多様な方法で啓発・普及・広報・情報提供を行うことができた。

(5)	ボランティア活動推進のための講座・研修の開催 ● 相 連 参 サ	地域づくりやボランティアの担い手の知識取得、技術向上等を図るとともに多くの住民に地域づくりやボランティアへの関心を高めるため講座・研修等を開催する。
(6)	地区住民自治協議会及び地区ボランティアセンター事業への相談・支援 相 連 参 サ	地域におけるボランティア活動活性化のため、住民自治協議会等が推進するボランティア活動等に関する相談に対し協力・連携し対応する。また、地域でのボランティア活動等の拠点整備に係る経費の助成を行う。
(7)	地域活動、居場所づくり、福祉共育（教育）への協力支援 相 連 参 サ	地域の多様な社会資源が取り組む地域活動、居場所づくり、福祉共育等の推進のため、推進主体である住民自治協議会、各種学校、企業等の相談に連携し対応するとともに取組に対して協力支援を行う。また、学校における福祉共育（教育）・ボランティア学習を推進するため、普及校の指定（事業の助成）を行う。
(8)	ボランティア保険の紹介・加入・取次ぎ 参	ボランティア活動を安心して行えるようボランティア保険の紹介・加入・取次ぎを行う。

地域活動に取り組まれている方の知識・技術向上を目的に開催した。 8 講座 394名 (R3: 8 講座145名)	P59 資料③	会場参加とZoom等ICTを活用し開催したため、多くの方の参加を得られ、多様な学びの場を設けることができた。
1 住民自治協議会への協力・連携 27地区 延べ97回 (R3:12地区 延べ23回) 2 地区ボランティアセンター開設支援 助成件数 0 件 (R3: 1 件) 助成累計 17ヶ所		学習機会を持ちたい地域に対して、ニーズを聞き取り、活動の活性化を図ることができた。
1 福祉共育・ボランティア学習推進事業 学校における福祉共育・ボランティア活動を推進するため、福祉共育・ボランティア学習普及校の指定及び事業の助成を実施した。 ○普及校事業交付金助成校 38校 (R3:44校) 内訳：小学校 24校 (R3: 28校)、中学校 6 校 (R3: 8 校)、高等学校 4 校 (R3: 5 校)、特別支援学校 4 校 (R3: 3 校) ○助成金交付額 1,046,400円 (R2:1,233,855円) 2 福祉共育・ボランティア学習普及校説明会及び情報交換会 普及校説明会に併せ、福祉教育担当教諭との情報交換会を実施した。 ○日時 5月10日(火)15:30～17:00 ○方法 オンライン (Zoom) ○参加者 福祉教育担当教諭 32名 3 福祉教育への協力、福祉体験等の実施及び職場体験(社会体験)への協力 協力・支援件数 21件 4 サマーチャレンジボランティア2022 身近な地域におけるボランティア活動の推進を図るため、誰もが気楽にボランティア活動の第一歩を踏み出せる体験の場として実施する事業。 7月7日、長野圏域の新型コロナウイルス感染警戒レベルが3に引き上げられたことに伴い全日程を中止した。 ○受付状況 ・受入先 46施設・団体 (R3:44施設・団体) ・参加受付者 199名 (R3:297名) ○事前研修会、ボランティア体験、事後研修会全日程を中止した。		福祉共育・ボランティア学習普及校を指定し助成金を交付するとともに、福祉教育等について学校や地域からの相談に対応することにより、福祉共育・ボランティア学習を推進することができた。 サマーチャレンジボランティアは新型コロナウイルス感染警戒レベルが3に引き上がったため全日程が中止となり、誰もが気軽にボランティア活動を体験できる場を提供できなかった。
○ボランティア保険 ・活動保険 加入者数 6,148件 (R3 6,234件) ・行事用保険 加入者数 115件 (R3 128件)		ボランティア保険の紹介・加入・取り次ぎを実施することにより、安心してボランティア活動が行える環境を提供することができた。

8 介護サービス課

No.	取組・事業名				取組・事業の概要
	重点	新規等	種別	総合計画	
(1)	利用者の社会参加支援の拡充				地域の社会資源の活用や、企業などと連携し、ファミリーマートの買い物かごそうじや障害者施設（くりのみ園）の畑作業など、利用者が役割を持って社会参加できるよう支援を拡充させる。
	●			連 参	
(2)	利用者が地域と関わり合いを持てる活動の実施				利用者が貴重な経験や技術を活かし、雑巾やエコバック作りなどしながら、住み慣れた地域でその人らしく生きがいを持って地域住民の一人として暮らせるよう支援する。
	●			サ	
(3)	地域の方が気軽に立ち寄れ、相談できる場所の提供				利用者の方を含む地域の方々が、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるように、事業所の機能や専門職としての知識を活かして、介護者教室や認知症カフェなど実施し、認知症理解の啓発や相談支援等を行う。
	●			相 連	
(4)	機能訓練の充実				利用者の自立支援、在宅生活継続のための機能訓練の充実を図る。また、LIFE※1へのデータ提出とフィードバックを活用する。
	●			サ	
(5)	外国人技能実習生の受け入れに向けた体制整備				人材確保に向けて、外国人技能実習生受け入れのための体制を整備し、組織の活性化を図る。
	●	新規		サ	
(6)	多様な人材が働ける環境の整備				業務の見直しやシステム化を推進し、業務の効率化や負担の軽減を図るとともに、職員のモチベーションを高めるため、働きやすく、魅力ある職場になるよう個々の事情に配慮した多様な働き方を検討する。
	●			サ	
(7)	会議や他職種連携におけるICTの活用				運営基準において実施が求められる各種会議等について、感染防止や他職種連携の促進から、ICTの活用を進める。
	●			連	
(8)	地域と連携した災害対応の強化				災害への対応において、地域のとの連携が不可欠であることから、訓練の実施等にあって地域住民の参加が得られるよう連携に努める。
	●			連	
(9)	感染症や災害発生後の業務継続に向けた取組（BCP）の検討				感染症や災害が発生しても、必要な介護サービスが継続的に提供できる体制を構築するための取組を検討する。
	●			サ	
(10)	感染症対策強化に向けた取組の検討				感染症の発生及びまん延等に関する取組の徹底を図るため、委員会の開催や指針の整備等検討する。
	●			サ	
(11)	感染症対策及び業務継続に向けた研修や訓練（シミュレーション）の実施				感染症対策及び必要なサービスが継続的に提供できるよう研修や訓練（シミュレーション）を実施する。
	●			サ	
(12)	災害福祉カンタンマップの利用検討				福祉・介護事業所と地域住民の協働により災害時要支援者情報の包括的な把握を目指した「災害福祉カンタンマップ」の利用を検討する。
	●		県社協事業	連	

事業実績	資料 頁・No	評価
○エコバッグプロジェクトを立ち上げ、善光寺仲見世の企業と連携し、利用者が作成したエコバッグを置いてもらうことができた。		今まで社会参加活動の継続し、利用者がより役割や目的をもって社会参加できるように支援の拡充ができています。
○コロナ感染のこともあり思うように活動できない事業所もあったが、エコバッグの取組などを中心に利用者が生きがいを持てるように支援した。		地域の学校へ雑巾の寄付や、エコバッグの評判がよく、需要も増加してきている。
○介護者教室では、関心の高い認知症についての講義や、オレンジカフェなどの実施により認知症の理解や相談支援を行う事ができた。		介護者教室、オレンジカフェ開催により地域の方々に認知症に関する理解が深まるとともに、社協の事業を知ってもらうことで、協力を得ることができている。
○機能訓練指導員を増員し、7月（対面）と2月（Zoom）に機能訓練指導員の会議を開催するなど、お互いの課題を話し合い交流を図った。		加算取得率向上の方法、計画書の立て方など確認出来たが、LIFEの有効活用はできなかった。
○インドネシアから外国人技能実習生2名を安茂里通所介護事業所で受け入れた。介護職員として実習を行った。		実習生2名は真摯に仕事に向きあっていて、事業所の活性化が図れている。
○子育てやライフプラン等職員の状況に配慮した勤務配置等を行った。各事業所において、タイムラインの見直しや業務マニュアル、手順書作成等を行った。		利用者や家族のニーズに応じた対応や職員不足による業務量増加で、残業が慢性化している。
○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、Zoomを活用したオンラインによる会議や研修を実施した。多職種連携情報共有システム、バイタルリンク、ケアプランデータ連携システムの導入を検討した。		新型コロナウイルス感染まん延状況において、オンライン会議が主流となった。また自宅でのリモートワークが進み、業務の効率化が図れている。
○「富竹の里」の嶋田所長の講演で災害時の避難体験、地域と協力した避難計画について話が聞け、各事業所で避難計画について検討する良い機会となった。また、今後の災害への対応に活かせる知識を習得することができた。		各事業所で地域と連携した災害への対応が行えるよう連携強化に取り組んだ。地域との連携の必要性について学び、今後の取組に活かす知識を習得できた。
○災害版のBCPについて検討してひな型としてまとめ、介護サービスセンター毎にBCPの作成に着手した。また先進事業所の取組を「富竹の里」の嶋田所長から学ぶ研修会も実施した。		BCP作成の必要性を学び、今後の準備に活かす取組ができた。
○指針整備と委員会設置等を検討し、感染対策指針としてまとめ、令和5年度から実施できるようにした。		必要事項について指針にまとめることができた。
○感染症版のBCPについて検討してひな型としてまとめ、介護サービスセンター毎にBCPの作成に着手した。		令和6年3月の完全実施に向け、BCP作成に着手することができた。
○要支援者の所在が明確になり、個別避難計画の作成にも役立つシステムであることから、利用について検討した。		利用には至らなかった。運用には費用がかかるため利用については今後も検討していく必要がある。

(13)	認知症ケアに関する研修会への参加及び勉強会の開催 ●	サ	介護サービスにおける認知症対応力を向上させるため、無資格者は認知症介護基礎研修を受講し、有資格者は更なるステップアップのため研修に参加する。また認知症ケアに関する勉強会を開催する。
(14)	虐待の発生・再発を防止するための委員会の設置、開催 ●	サ	利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、委員会の設置開催、指針の整備、研修の実施等進める。
(15)	居宅介護支援事業	相 連	要介護状態の高齢者等が介護保険のサービスを受けられるようにケアプランの作成を行い、サービス提供事業所や医療との連絡調整等を行う。
(16)	訪問介護事業	サ	ホームヘルパーが自宅を訪問し、食事や排泄など日常生活上の介護や、調理や洗濯などの生活援助を行う。
(17)	通所介護事業	サ	通所介護事業所において、食事・入浴などの日常生活上の世話や機能訓練・レクリエーションなどを行う。
(18)	短期入所生活介護事業	サ	短期入所施設において、入浴、食事などの日常生活上の介護や機能訓練などを行う。
(19)	認知症対応型共同生活介護事業	サ	認知症高齢者を対象にしたグループホームにおいて、共同生活の中で、必要な介護や生活の世話を行う。
(20)	訪問看護事業	サ	看護師が自宅を訪問し、主治医の指示に従って、療養上の世話や診療の補助などを行う。
(21)	居宅介護	サ	訪問介護員が障害者の自宅を訪問し、入浴・排せつ・食事などの介護や、調理・洗濯・掃除などの家事を行う。

○新人の職員には新人研修で行うことができたが、全体の研修ができず、各事業所で研修を実施した。		全体での研修ができなかった。研修の方法を検討する必要がある。
○運用指針を策定、各事業所における委員の選任を行い、委員会設置・開催まで行うことができた。		研修会は開催しなかった。また、委員構成については再検討し、修正する必要がある。
○信州新町事業所を中条事業所と統合し、9事業所体制でケアプラン作成等を行った。	P61 資料③②③③	昨年度と比較し、居宅介護支援も介護予防支援も増加した。2事業所の統合により加算事業所になり、収入増を図ることができた。今後も維持したい。
○身体介護または日常生活を支援する生活援助サービスを8事業所（サテライト2事業所を含む）で提供した。アドバイザーの指導を受け、営業方法も検討でき、新規利用者を受けることができた。	P62 資料③④	訪問介護員の減少もあり、昨年度に比べて利用者数は減少した。人材確保及び人材定着に向けて検討する必要がある。引き続き、アドバイザーの助言を取り入れ、広報誌の発行など営業活動を進めるとともに、各事業所でサービスの質の向上を図るため研修を行う必要がある。
○通所介護サービスを10事業所（サテライト1事業所を含む）で提供した。	P63 資料③⑤	自立支援に向けた取組の実施や社会参加活動の内容、機能訓練・各種プログラムの充実を図った。内覧会やフェイスブック等により、事業所の取り組みをアピールした。
○短期入所生活介護サービスを2事業所で実施した。	P65 資料③⑥	昨年度に比べ、両事業所とも利用人数と利用回数が増加している。利用者、家族の希望に沿ったサービスの提供ができた。
○鬼無里なかよしハウスにおいて、認知症対応型共同生活介護サービス提供した。地域の方との交流を行った。（花の球根プレゼント、小学校へ雑巾のプレゼント等）	P66 資料③⑦	施設が少ない中山間地で、入所施設のように介護度の重い方も利用していることから、グループホームとしてのあり方を検討する必要がある。コロナ禍であったが、工夫しながら地域の方と交流出来た。
○戸隠において、訪問看護サービスを提供した。	P66 資料③⑧	利用者数、利用回数が増加した。通常の事業実施地域が戸隠地区と限定されているが、利用者は増加傾向にあるので、今後も維持したい。
○身体介護または日常生活を支援する生活援助サービスを提供した。アドバイザーの指導を受け、営業方法も検討でき新規を受けることができた。	P66 資料③⑨	訪問介護員の減少もあり、昨年度に比べて利用人数は減少した。人材確保及び人材定着に向けて検討する必要がある。誰でも同じサービスができる様に、各事業所間で研修を行い、職員の資質向上を図る必要がある。

(22)	重度訪問介護	サ	重度の障害者で常に介護を必要とする人に、訪問介護員が自宅を訪問し入浴・排せつ・食事などの介護や、外出時における移動支援などを総合的に行う。
(23)	同行援護	サ	移動が困難な視覚障害者等に対し、訪問介護員が通院介助や日常生活における買い物など、外出時に必要な援助を行う。
(24)	介護保険外サービス事業	● 拡大 サ	介護保険制度では適用できないサービスを提供する。 (ゴミ出し、通院介助など)
(25)	移動支援サービス	サ	屋外での移動が困難な障害者を対象に、ホームヘルパーが社会生活を営む上で必要な外出や余暇活動を実現するための外出等を支援する。
(26)	高齢者生活福祉センター事業	指定管理 サ	居宅での生活に不安のある独居や夫婦のみの高齢者世帯を対象に、通所介護事業所併設の居宅施設において、食事の提供、各種相談、助言、緊急対応を行う。(鬼無里・大岡・中条地区)
(27)	高齢者共同生活支援施設事業	指定管理 サ	居宅での生活に不安のある独居や夫婦のみの高齢者世帯を対象に、居住施設において、食事の提供、各種相談、助言、緊急対応を行う。(戸隠地区)
(28)	地域包括支援センター事業	市受託 相 連 サ	介護・福祉・保健・医療に関する総合相談窓口として設置された機関。社会福祉士・保健師・主任ケアマネジャーなどの専門職員を配置し、高齢者の皆さんが住み慣れた地域で安心して生活が送れるよう支援する。(安茂里・吉田・豊野地区)
(29)	在宅介護支援センター事業	市受託 相 連	地域包括支援センターの行う業務を補って、地域の身近な相談窓口として、在宅介護等に関する総合的な相談に応じ、福祉や保健などのサービスを提供するために地域内の関係機関との連絡調整を行う。(鬼無里・大岡地区)

※1 LIFE

(Long-term care Information system For Evidence) の略

「科学的介護情報システム」という意味で、科学的に効果が裏付けられた自立支援・重度化防止に資する質の高いサービス提供の推進を目的とし、厚生労働省へデータの提出とフィードバックの活用によって、PDCAサイクル・ケアの質の向上を図ること

○重度の障害者の身体介護または日常生活を支援する生活援助サービスを提供するが、令和4年度は利用者はなかった。		営業活動も行いながら、サービスの資質向上を図る必要がある。
○視覚障害者に対し、外出支援のサービスを提供した。依頼はあり、各事業所で時間等相談し対応した。	P66 資料③⑨	訪問介護員の減少もあり、昨年度に比べて利用人数は減少した。人材確保及び人材定着に向けて検討する必要がある。同行援護の研修に参加し、資質向上を図った。
○ケアマネからやご本人から相談があった時等に対応した。		利用料が上がったこともあり、以前に比べ利用者が減ってきている。
○障害者総合支援法に基づく市地域生活支援事業の「移動支援サービス」を提供した。	P67 資料④⑩	訪問介護員の減少もあり、昨年度に比べて利用人数は減少した。人材確保及び人材定着に向けて検討する必要がある。プランナーに対する営業も必要である。
○3か所（鬼無里、大岡、中条）の高齢者生活支援施設の管理・運営を行った。	P67 資料④⑪	大岡以外は、前年度に比べ利用者が減少した。事業は、滞りなく、計画どおり実施することができた。
○2か所（戸隠栃原、戸隠豊岡）の高齢者共同生活支援施設の管理・運営を行った。	P67 資料④⑫	各施設とも前年度に比べ、利用が減少した。事業は、滞りなく、計画どおり実施することができた。
○安茂里・豊野サブセンター・吉田の3事業所を受託。業務の効率化を図るため豊野サブセンターの本所を安茂里から吉田に変更することを検討した。	P68 資料④⑬	コロナ禍ではあったが、感染対策を講じ、介護者教室やネットワーク会議を開催することができた。相談件数は増加傾向にある。介護予防プランの作成件数も増え、職員を増員するなど長野市と協議しながら体制整備する必要がある。
○鬼無里・大岡の2事業所を受託。	P70 資料④⑭	相談件数、高齢者実弟把握調査など減少した。新型コロナウイルスの影響もあり、計画どおりできなかった事業もあるが、おおむね実施することができた。

Ⅲ 付属明細書

1 法人全体で行うこと

資料① No(1)会務の運営

(1) 理事会の開催

【第1回理事会】 令和4年4月1日(金)
決議の省略(書面決議)

議案第10号 常務理事の選定について
報告第6号 補欠理事の選任について

【第2回理事会】 令和4年6月3日(金) 午後2時
長野市ふれあい福祉センター 5階ホール

議案第11号 令和3年度社会福祉法人長野市社会福祉協議会事業報告
議案第12号 令和3年度社会福祉法人長野市社会福祉協議会決算
議案第13号 第三次長野市社会福祉協議会総合計画案について
議案第14号 評議員選任・解任委員の補充選任について
議案第15号 評議員補充選任候補者の推薦について
議案第16号 参与の選任について
議案第17号 令和4年度第1回評議員選任・解任委員会の招集について
議案第18号 令和4年度第1回評議員会(定時評議員会)の招集について

【第3回理事会】 令和4年7月14日(木) 午後5時
ホテルメトロポリタン長野 2階「千曲」

議案第19号 第68回長野市社会福祉大会の開催について
報告第9号 評議員の補充選任について

【第4回理事会】 令和4年10月18日(火) 午前9時30分
長野市ふれあい福祉センター 5階ホール

報告第10号 社会福祉法人長野市社会福祉協議会職員の育児休業に関する規程の一部を改正する規程の専決について
報告第11号 会長、常務理事の職務執行状況について
報告第12号 令和4年度上半期の事業進捗状況等について

【第5回理事会】 令和5年3月14日(火) 午前9時
長野市ふれあい福祉センター 5階ホール

議案第1号 令和5年度社会福祉法人長野市社会福祉協議会事業計画
議案第2号 令和5年度社会福祉法人長野市社会福祉協議会予算
議案第3号 社会福祉法人長野市社会福祉協議会 組織規程の一部を改正する規程
議案第4号 社会福祉法人長野市社会福祉協議会 公印規程の一部を改正する規程
議案第5号 社会福祉法人長野市社会福祉協議会 就業規則の一部を改正する規則
議案第6号 社会福祉法人長野市社会福祉協議会 職員の給与規程の一部を改正する規程

- 議案第7号 社会福祉法人長野市社会福祉協議会 経理規程の一部を改正する規程
- 議案第8号 社会福祉法人長野市社会福祉協議会 居宅介護支援事業所設置規程の一部を改正する規程
- 議案第9号 社会福祉法人長野市社会福祉協議会 訪問介護事業所設置規程の一部を改正する規程
- 議案第10号 社会福祉法人長野市社会福祉協議会 在宅介護支援センター設置規程の一部を改正する規程
- 議案第11号 社会福祉法人長野市社会福祉協議会 認知症対応型共同生活介護事業所設置規程の一部を改正する規程
- 議案第12号 社会福祉法人長野市社会福祉協議会 基準該当短期入所生活介護事業所設置規程の一部を改正する規程
- 議案第13号 社会福祉法人長野市社会福祉協議会 訪問看護事業所設置規程の一部を改正する規程
- 議案第14号 社会福祉法人長野市社会福祉協議会 地域包括支援センター設置規程の一部を改正する規程
- 議案第15号 令和4年度第2回評議員会の招集について
- 報告第1号 社会福祉法人長野市社会福祉協議会 職員の給与規程の一部を改正する規程の専決について
- 報告第2号 会長、常務理事の職務執行状況について
- 報告第3号 令和4年度下半期の事業進捗状況等について

(2) 評議員会の開催

【第1回評議員会(定時評議員会)】 令和4年6月23日(木) 午前9時30分
長野市ふれあい福祉センター 5階ホール

- 報告第4号 評議員選任・解任委員の補充選任について
- 報告第5号 評議員の補充選任について
- 報告第6号 常務理事の選定について
- 報告第7号 参与の選任について
- 報告第8号 令和3年度社会福祉法人長野市社会福祉協議会補正予算の専決について
- 議案第4号 令和3年度社会福祉法人長野市社会福祉協議会事業報告
- 議案第5号 令和3年度社会福祉法人長野市社会福祉協議会決算
- 議案第6号 第三次長野市社会福祉協議会総合計画案について

【第2回評議員会】 令和5年3月23日(木) 午前9時
長野市ふれあい福祉センター 5階ホール

- 議案第1号 令和5年度社会福祉法人長野市社会福祉協議会事業計画
- 議案第2号 令和5年度社会福祉法人長野市社会福祉協議会予算
- 報告第1号 令和4年度事業の進捗状況等について

(3) 正副会長会の開催

【第1回正副会長会】 令和4年6月3日(金) 午後1時15分
長野市ふれあい福祉センター 5階会議室4

- 議 題 (1) 今後の日程について
(2) その他

【第2回正副会長会】 令和4年7月14(木) 午後4時
ホテルメトロポリタン長野 3階「黒姫」

- 議 題 (1) 第3回理事会の議事について
(2) 第68回長野市社会福祉大会 顕彰者の審査について
(3) 第68回長野市社会福祉大会 要綱及び次第について
(4) その他

(4) 評議員選任・解任委員会の開催

【第1回評議員選任・解任委員会】
令和4年6月13日(月) 午前10時
長野市ふれあい福祉センター 5階会議室4
議案第1号 評議員の補充選任について

(5) 事業及び会計の監査

【令和3年度監査】 令和4年5月19日(木) 午前10時
令和4年5月20日(金) 午前10時
長野市ふれあい福祉センター 2階会議室2
監査対象 ア 令和3年度社会福祉法人長野市社会福祉協議会事業報告及び業務執行状況
イ 令和3年度社会福祉法人長野市社会福祉協議会決算

(6) 苦情解決第三者委員会の開催

【令和4年度苦情解決第三者委員会】
令和4年8月4日(木) 午後1時
ホテルメルパルクNAGANO 4階 花
報告事項 長野市社会福祉協議会 苦情対応に関する報告について
※市民自協の理事会において時間を頂戴し、報告した。

資料② No(4) 研修の実施・参加

(1) 法人全体の研修(3課共通)

実施日	内 容	対象者	参加者数
令和4年4月1日(金)	法人の概要説明会 (社会福祉協議会と本会の概要について説明)	新規採用者(正規・嘱託・臨時の一部)	18人
令和4年7月5日から10月7日の間で4回(いずれか1回参加)	安全運転管理者等講習 主催:安全運転管理者協会 (市内3か所で実施)	各事業所安全運転管理者及び副安全運転管理者(所長等)	14人
令和4年4月12日から令和4年7月15日の間で計4回実施	新規採用職員研修プログラム	令和4年度新規採用の正規職員	13人

実施日	内 容	対象者	参加者数
令和4年9月7日（水）	退職手当積立基金制度見直し 説明会 主催：長野県社会福祉協議会	事務局長、総務課職員	3 人
令和4年12月2日（金）	インボイスに関する勉強会 主催：成澤会計事務所	総務課職員	3 人
令和4年11月21日（月）	働きやすい職場づくりに関する 管理職研修	管理職（所長含む）	24 人
毎月（第二火曜日等実施）	メンタルヘルス個別研修 担当：日本産業カウンセラー協会 上信越支部長野事務所	全職員のうち希望者	延べ91 人

（２） 児童館・児童センター、子どもプラザ職員研修

実施日	内 容	対象者	参加者数
令和4年4月15日（金）	新任職員研修 「館・プラザ運営上の留意点」、「施設管理運営に関する要綱」を中心に説明	新任職員	47 人
令和4年5月～6月上旬	全体研修 「子どもへの救急救命措置」（研修ビデオ視聴） ①急病・けがの対応 ②心肺蘇生 ③AEDの使用 方法 ④気道異物の除去 ⑤出血時の止血 ⑥傷病者の管理	館長施設長 コーディネータ ー 支援員 補助員 （職場内視聴）	全職員
令和4年7月6日（水）	第1回支援員研修 1「支援員が勧める遊びと生活交流会」～各施設の遊び紹介と関わり～ 2 グループ討議（ZOOMのブレイクアウトルーム機能を利用して）	支援員	357 人
令和4年11月8日（火） （録画配信：11月14日、 11月15日）	第2回支援員研修 ＜インクルーシブな支援へ＞「こんな支援をしてみたらどうですか」～特別支援のポイントと技（わざ）を学ぶ～	館長施設長 支援員 補助員	285 人
令和5年1月19日（木） （録画配信：1月26日）	第3回支援員研修 「全国的な視点から、専門職としての支援員をめざして パートⅡ」 ～「子どもの生活を創る・子どもが生活を創る」そのために私たちは～	館長施設長 支援員 補助員	262 人

(3) 地域福祉課職員研修

実施日	内 容	対象者	参加者数
令和4年4月2日(土) 令和4年4月9日(土) 令和4年4月23日(土) 令和4年5月14日(土) 令和4年5月21日(土) 令和4年5月28日(土) 令和4年6月4日(土) 令和4年6月11日(土)	長野いのちの電話 相談員養成講座(公開講座)	ボランティアセンター職員	2人
令和4年6月8日(金)	高齢者等の移動手段確保について	地域福祉担当職員	2人
令和4年6月20日(月)	第1回ひきこもり支援実践研究会	まいさぼ長野市 ・アウトリーチ支援員	1人
令和4年6月24日(金)	第160回市町村セミナー	まいさぼ長野市 ・アウトリーチ支援員 ・相談支援包括化推進員	2人
令和4年7月16日(土)	ひきこもりの理解促進と支援力向上のための研修会(基礎編)	まいさぼ長野市 ・アウトリーチ支援員	2人
令和4年8月1日(月)	災害コミュニティソーシャルワーク研究会	まいさぼ職員 ささえあいセンター職員	2人
令和4年8月2日(火)	地域共生社会推進セミナー	まいさぼ長野市 ・アウトリーチ支援員 ・相談支援包括化推進員	2人
令和4年8月2日(火)	災害ボランティアセンター運営研修	ささえあいセンター職員	1人
令和4年8月27日(土)	更北地区の目指す地域福祉とは	ボランティアセンター職員	1人
令和4年8月31日(水) ～令和4年9月2日(金)	コミュニティにおけるソーシャルワーク力強化研修・長野	地域福祉担当職員 ささえあいセンター職員	2人
令和4年9月1日(木) 令和4年9月2日(金)	いきがい・助け合いサミット in 東京 共生社会をつくる地域包括ケア ～生活を支え合う仕組みと実践～	ボランティアセンター職員	1人
令和4年9月5日(月)	こども若もの応援セミナー	まいさぼ長野市 ・主任相談支援員	1人
令和4年9月14日(水)	市町村居住支援協議会設立に向けた勉強会	まいさぼ長野市 ・相談支援包括化推進員	1人
令和4年9月19日(月)	ナガノSDGsミライ会議 多文化共生社会を創ろう!	ボランティアセンター職員	1人
令和4年9月22日(木)	重層的支援体制整備事業特別公開セミナー	まいさぼ長野市 ・相談支援包括化推進員	1人

実施日	内 容	対象者	参加者数
令和4年10月6日(木)	生活福祉資金担当部課長会議及び担当者研修	まいさぼ長野市 ・主任相談支援員	1人
令和4年10月21日(金)	ヤングケアラー研修会	まいさぼ長野市 ・相談支援包括化推進員	1人
令和4年10月27日(木)	ふくしネットフェスタ 2022 講演会「共に生きる地域社会のために」～障害者差別解消法のこれから～	ボランティアセンター職員	2人
令和4年11月2日(水)	重層的支援体制整備事業自治体向けセミナー	まいさぼ長野市 ・相談支援包括化推進員	1人
令和4年11月10日(木)	長野ブロック社協職員・ボランティア交流研究集会	ボランティアセンター職員	2人
令和4年11月11日(金)	地域の協働から生まれた移動サービスの勉強会	地域福祉担当職員	3人
令和4年11月23日(水)	協働を改めて考える ぼくらの協働を探す旅に出かけよう！！	ボランティアセンター職員	1人
令和4年12月1日(木)	相談支援員養成研修	まいさぼ長野市 ・相談支援員	1人
令和4年12月13日(火)	公開座談会・社協における重層的支援体制整備事業の取り組み	まいさぼ長野市 ・相談支援包括化推進員	1人
令和4年12月15日(木)	地域の居住支援体制構築のための勉強会	まいさぼ長野市 ・相談支援包括化推進員	1人
令和4年12月15日(木) 令和4年12月16日(金)	令和4年度生活困窮者自立支援制度におけるブロック別研修	まいさぼ長野市 ・相談支援員	2人
令和4年12月20日(火)	生活困窮者自立支援制度国研修 テーマ別（孤独・孤立）	まいさぼ長野市 ・アウトリーチ支援員	1人
令和4年12月21日(水)	令和4年度ヤングケアラー支援対応研修	まいさぼ長野市 ・相談支援包括化推進員	1人
令和5年1月12日(木)	令和4年度テーマ別研修生活困窮者支援における子どもと家族支援	まいさぼ長野市 ・相談支援員	1人
令和5年1月27日(金)	令和4年度ひきこもり相談担当者研修会	まいさぼ長野市 ・アウトリーチ支援員	2人
令和5年1月30日(月)	居住支援に関する研修会	まいさぼ長野市 ・相談支援包括化推進員	1人
令和5年1月31日(火)	管内保健医療福祉関係者等研修会(依存症対策)	まいさぼ長野市 ・アウトリーチ支援員	2人
令和5年2月1日(水)	生活困窮者自立支援制度人材養成研修	まいさぼ長野市 ・相談支援員	1人
令和5年2月21日(火)	令和4年度農福連携就農指導及び意見交換会	まいさぼ長野市 ・相談支援員	1人

実施日	内 容	対象者	参加者数
令和5年2月24日(金)	「うらしま太郎」インストラクター養成研修	ボランティアセンター職員	3人
令和5年3月14日(火)	災害ソーシャルコミュニティワークセミナー	ささえあいセンター	1人

(4) 介護サービス課職員研修

実施日	内 容	対象者	参加者数
令和4年4月15日(金)	新入社員安全衛生教育講習	新規採用職員(正規)	1人
令和4年4月19日(火)	新規採用職員研修	新規採用職員	14人
4月～	エルダーメンター研修	新規採用職員(運転手を除く)	13人
毎月1回	山下総司アドバイザー 通所介護業務改善研修	通所介護員	
毎月1回	広畑晶子アドバイザー 訪問介護業務改善研修	訪問介護員	
年間研修計画に基づく	運営基準研修	各事業所	1人
令和4年6月～10月 (8日間)	認知症介護実践リーダー研修	介護職員	1人
令和4年6月～10月 (8日間)	認知症介護実践者研修	介護職員	1人
令和4年6月～12月	メンタルヘルス研修	新規・異動・昇進等職員	28人
令和4年6月15日(水)・ 7月20日(水)	新人育成担当者研修	入職後3年以上の職員	4人
令和4年6月22日(水) ～24日(金)	応急手当普及員講習	介護職員	2人
令和4年6月28日(火) ～29日(水)	福祉職員生涯研修 管理者課程	新任所長	2人
令和4年7月1日(金)・ 9月9日(金)	キャリアパス制度構築基礎研修	所長補佐・係長	4人
令和4年7月1日(金)	苦情対応実践講座(オンライン)	苦情対応責任者	4人
令和4年7月6日(水) ～7日(木)	甲種防火管理講習	管理職	1人
令和4年8月2日(火) ～令和5年3月4日(土)	応急手当普及員再講習	介護サービス課職員 ・介護職員	16人
令和4年8月19日(金)	新規採用職員研修	新規採用職員	4人

実施日	内 容	対象者	参加者数
令和4年8月19日(金)～ 11月22日(火) (8日間)	主任介護支援専門員更新研修 (オンライン+集合)	介護支援専門員	4人
令和4年8月19日(金)～ 11月22日(火) (12日間)	主任介護支援専門員研修 (オンライン+集合)	介護支援専門員	1人
令和4年9月14日(水) ～15日(木)	甲種防火管理者講習	管理職	1人
令和4年10月18日(火) ～19日(水)	福祉職員生涯研修 チームリーダー過程	介護職員・介護支援専門員	2人
令和4年11月29日(火) ～30日(水)	福祉職員生涯研修 中堅職員過程	介護職員・保健師	3人
令和4年12月23日(金)	福祉職員生涯研修 新任管理者課程	介護員・看護員 ・介護支援専門員	4人
令和5年2月7日(火)	第3回新規採用職員研修	新規採用職員	5人
令和5年2月13日(月)	経営セミナー	管理職	1人
令和5年2月15日(水)	シニア人材活用セミナー	管理職	1人
令和5年2月中	認知症介護基礎研修 (eラーニング)	無資格介護員	1人

(5) 第71回長野県社会福祉大会への参加

ア 期 日 令和4年11月12日(土)

イ 開催方法 「信州ふっころフェスティバル2022」の併催として、須坂市文化会館メセナホールおよびオンラインの併催による

ウ 参加方法 理事及び職員へ開催周知し、各自で視聴

エ 概要 (信州ふっころフェスティバル2022)

(ア) オープニング (ケアコン2022表彰式等)

(イ) 地域共生シンポジウム「人口減少社会に持続可能な地域づくりを考える」

(ウ) 各種表彰

(エ) スペシャルライブ (ギタリスト Showji)

(オ) 介護の日スペシャルトーク「介護の魅力を語ろう、伝えよう！」

資料③ No(6)県内社協職員災害初動時先遣チーム(DSAT)への参加

1 メンバー

(1) 正規メンバー 小野貴規

(2) 交代メンバー 松岡伸樹、上平祥平、村田智徳

2 研修等の実績

月日	活動等の内容	参加者
令和4年10月3日(月) ～10月7日(金) (5日間)	令和4年9月台風15号被害に対する静岡市ボランティアセンター運営支援 (長野県社協からの依頼に基づき)	小野
令和5年3月27日(月)	令和4年度DSAT運営委員会	小野

資料④（その他）苦情受付件数

苦 情 の 内 容	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
職員の接遇（態度）に関する事	15	8	9
運転（駐車）に関する事	2	6	7
提供しているサービスに関する事	18	13	11
施設（設備・利用）に関する事	0	0	0
その他	0	4	2
合 計	35	31	29

2 総務課（総務担当）**資料⑤ No(1) 長野市社会福祉大会の開催**

- (1) 期 日 令和 4 年 8 月 26 日（金）
(2) 会 場 長野市ふれあい福祉センター 5 階ホール
(3) 参加者数 65 名（うち被表彰者 55 名）
(4) 内 容 等

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため、参集範囲を限定して開催した。

①式典 14：00～14：40

顕彰（社会福祉関係功労者等に対し、大会壇上において顕彰した。）

ア 社会福祉功労者 93 名

イ 優良住民自治協議会等 2 地区

ウ 社会福祉事業協助者 24 件

エ 県共同募金会館長感謝状（伝達） 2 件 計 121 件

②事例発表、講演

ア 事例発表

○地域の資源を活かす ～川中島町常泉寺カフェの取組から～

常泉寺住職、川中島町公民館長 増田 秀晃 氏

○民生委員児童委員の経験を活かす ～ささえあいセンターの取組から～

長野市生活支援・地域ささえあいセンター生活支援相談員 米山 秀一

コメンテーター：ルーテル学院大学 学術顧問・教授 市川 一宏 氏

コーディネーター：長野市社会福祉協議会地域福祉課主幹 土屋 ゆかり

イ 講 演

○講師：ルーテル学院大学 学術顧問・教授 市川 一宏 氏

○演題：地域福祉の原点に戻る ～大切なもの、大切なことを守る～

資料⑥ No(2) ふれあい福祉センター管理経営事業実績

(単位：件・人)

年度	件 数							延べ 利用者数
	会議室4-2	会議室4-3	会議室5-4	研修室	料理 実習室	ホール	合計	合計
27	775	673	725	778	239	714	3,904	91,005
28	824	722	735	763	295	756	4,095	93,679
29	799	724	727	755	300	741	4,046	87,594
30	777	701	719	691	317	739	3,944	91,075
R1	818	722	747	720	312	727	4,046	81,430
R2	782	745	678	677	254	678	3,814	60,290
R3	770	722	665	699	160	723	3,739	59,473
R4	894	812	754	678	214	838	4,190	67,817

資料⑦ No(3) 寄付・賛助会費の募集

1 賛助会員

年度 項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
会員数	4人	2人	2人
会費合計(円)	45,000円	30,000円	25,000円

2 寄付者名簿（敬称略）

No.	月 日	金額（物品）	氏 名	住 所
1	R4. 4. 20	手指消毒液（ジェルタイプ）56本	匿名	東京都千代田区
2	R4. 6. 4	20,000	長野モラロジー事務所 代表 丸田献次郎	長野市大字中御所岡田町
3	R4. 6. 27	1,000	市村 英樹	長野市丹波島
4	R4. 6. 30	車いす2台（株カワムサイクル KMD-A22-40-M_A9 緑チェック）	ピップ(株)	東京都千代田区
5	R4. 5. 26	25,000	匿名	長野市岡田
6	R4. 5. 27	25,000	匿名	長野市岡田
7	R4. 5. 31	25,000	匿名	長野市七瀬中町
8	R4. 5. 31	25,000	匿名	長野市七瀬中町
9	R4. 6. 2	25,000	匿名	長野市県町
10	R4. 6. 30	25,000	匿名	長野市北長池

11	R4. 7. 13	エアロバイク 2 台 ジョーバ 1 台	匿名	千曲市戸倉
12	R4. 7. 28	タオル 300 枚	生命保険ファインシャルアドバイザー協会 長野県協会	長野市南石堂町
13	R4. 11. 15	8, 750	NTT 労組退職者の会 長野地区協 議会	長野市新田町
14	R4. 11. 18	車いす 2 台 (Wheel Chair MIKI BAL-1)	「小さな親切」運動 長野支部	長野市新田町
15	R4. 11. 11	全国盲学校弁論大会弁 論集	匿名	長野市篠ノ井岡田
16	R4. 11. 29	入口案内掲示板、 掲 示板、パンフレットス タンド	一般社団法人 MDRT 日本会	東京都千代田区
17	R4. 11. 24	500, 000	宗教法人 真如苑	長野市吉田
18	R4. 11. 4	12, 666	ながの農業協同組合 西山支所	上水内郡小川村大字高府
19	R4. 12. 20	22, 203	拝野忠昭	長野市浅川西平
20	R4. 12. 27	45, 000	長野市ママさんバレーボール連盟	長野市吉田
21	R5. 2. 1	車いす 1 台 (KH-MLT- B-KC-1)	東京海上日動火災保険(株) 長野支 店 理事長長野支店長 武元忠雄	長野市南県町
22	R4. 12. 27	300, 000	匿名	
23	R5. 2. 8	8, 000	長野市ママさんバレーボールクラ ブ	長野市篠ノ井杵淵
24	R5. 3. 5	10, 000	匿名	長野市大字高田
25	R5. 2. 23	QUO カード	塚田まゆり	長野市大字南長野南県町
合計件数(金額)				1, 496, 619
うち物品受付(金額換算)				419, 000
うち現金受付(金額)				1, 077, 619

3 総務課（団体担当）

資料⑧ 事務受託団体一覧（9 団体）

No.	団 体 名	代 表 者		会員・構成
1	長野市民生委員児童委員協議会	会 長	伊 藤 篤 志	879 人
2	長野市遺族会	会 長	横 田 久	1, 390 人
3	日本赤十字社長野県支部長野市地区	地区長	荻 原 健 司	—
4	長野県共同募金会長長野市共同募金委員会	会 長	寺 沢 さゆり	—
5	長野市赤十字奉仕団	委員長	西 正 夫	2, 301 人

No.	団 体 名	代 表 者		会員・構成
6	長野市手をつなぐ育成会	会 長	丸 山 香 里	236 人
7	長野地区保護司会	会 長	千 野 裕 文	153 人
8	長野地区更生保護女性会	会 長	井 上 恵美子	932 人
9	長野圏域介護保険事業者連絡協議会	会 長	寺 田 裕 明	92 事業者

※令和5年3月31日現在

資料⑨ No(1)社会を明るくする運動推進事業実績

1 各地区助成状況一覧

地区名	助成 回数	作文 発表	講演会	映画会	懇談会	演奏会 等発表	P R 他	住民集会 参加者数	地区推進 委員会
第 一									
第 二	2					7/15		30	6/17
第 三	1								6/3
第 四									
第 五									
芹 田	2					7/23		36	5/20
古 牧	2			10/1				38	8/29
三 輪									
吉 田									
古 里	2		7/16					70	6/15
柳 原	2		10/15	10/15				30	6/18 7/23
浅 川	2		7/30					71	6/22
大豆島	2		7/2					60	6/2
朝 陽									
若 槻	2		7/2					57	5/21 6/9 7/1
長 沼	2						チラシ 全戸配布		6/9
安茂里	2		6/25			6/25		60	5/12
小田切	1								6/1
芋 井									
篠ノ井	2					10/18 11/13 12/3		43	6/23
松 代	2	7/23	7/23					43	6/11 6/25
若 穂	2		7/2			7/2		45	5/26 6/21

地区名	助成回数	作文発表	講演会	映画会	懇談会	演奏会等発表	P R 他	住民集会参加者数	地区推進委員会
川中島	1								6/17
更 北									
七二会	2		12/2					40	4/19
信 更	2	12/3	12/3					56	6/24
豊 野	2		12/3					54	9/22
戸 隠	1								7/21
鬼無里									
大 岡	2		7/19					24	7/8
信州新町									
中 条	1		7/2			7/2		21	6/29
合 計	22 地区 39 回	2 地区	13 地区	2 地区	0 地区	6 地区	1 地区	778 人	22 地区 27 回
(参考) R 3 年度	22 地区 37 回	1 地区	15 地区	1 地区	0 地区	1 地区	0 地区	785 人	22 地区 27 回

※地区推進委員会 1 回につき 5,000 円、地区住民集会 1 回につき 15,000 円以内を助成した。

2 広報活動の実施

- (1) 有線放送、各地区での広報活動等、周知を図るための活動を行った。
- (2) 挨拶ポスター1,200 枚を各行政区、学校関係（小・中・高・特殊諸学校）、市役所、市社協、児童館に配布した。

資料⑩ No (2) 災害見舞金事業実績

(金額：円)

種別	区 分		件数	市社協 @10, 000	県共募 @10, 000 (@5, 000)	日 赤 県支部 @10, 000	合 計
住宅 罹災	火災	全焼	13	130,000	130,000	毛布(21 枚)	260,000
		半焼	3	30,000	30,000		60,000
		集合住宅					
	災害	全壊					
		半壊					
		床上浸水	3	30,000	30,000		60,000
	小 計		19	190,000	190,000	毛布(21 枚)	380,000
事故 死等	交通事故		3	30,000			30,000
	その他事故		1	10,000			10,000
	火災死亡		3	30,000	30,000	30,000	90,000
	小 計		7	70,000	30,000	30,000	130,000
合 計			26	260,000	220,000	30,000	510,000
(参考) 令和3年度			27	270,000	210,000	40,000	520,000

※県共同募金会の見舞金（ ）内は、下宿・寄宿舎・病院等で罹災の場合に適用します。

資料⑪ No (4) 日赤活動資金募集事業実績

項目 \ 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
目 標 額	56,711,000 円	56,683,000 円	57,190,000 円
実 績 額	47,268,708 円	46,574,325 円	45,384,527 円
達 成 率	83.4%	82.2%	79.4%

資料⑫ No (5) 共同募金運動協力事業実績

項目 \ 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
目 標 額	57,344,000 円	56,972,000 円	56,591,000 円
実 績 額	54,288,432 円	53,071,350 円	51,722,746 円
達 成 率	94.7%	93.2%	91.4%

資料⑬ No (6) 共同募金配分金事業実績

共同募金における市社協にかかる配分を行った。

(募金年度：令和 3 年度、予算執行年度：令和 4 年度)

当初の計画		実績に基づく配分	
募金目標	56,972,000 円	募金実績	53,071,350 円
県への配分	25,011,000 円	県への配分	25,011,000 円
市への配分	31,961,000 円	市への配分	※ 28,060,350 円

※ うち 市社協配分額 21,563,968 円

うち 住自協配分額 6,496,382 円

4 総務課（こどもプラン担当）**資料⑭ No (1) 児童館・児童センター・放課後子どもプラザの管理経営事業実績**

1 児童館の管理経営状況（児童センター30 館、児童館 4 館） (単位：人)

No.	名 称	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
		登録 児童数	年間延べ 利用児童数	登録 児童数	年間延べ 利用児童数	登録 児童数	年間延べ 利用児童数
1	箱清水児童センター	64	6,586	59	7,086	42	5,165
2	加茂児童センター	87	11,577	75	11,635	73	10,050
3	古牧児童センター	154	22,573	149	22,142	139	20,919
4	日詰児童館	53	6,096	65	6,944	68	7,508
5	三輪児童センター	155	21,077	154	24,390	141	21,495
6	吉田児童センター	—	—	134	17,291	109	14,180
7	裾花児童センター	68	10,861	68	12,803	60	12,153
8	柳町児童センター	76	9,216	76	11,217	—	—

No.	名 称	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
		登録 児童数	年間延べ 利用児童数	登録 児童数	年間延べ 利用児童数	登録 児童数	年間延べ 利用児童数
9	湯谷児童センター	81	11, 229	61	9, 730	73	10, 158
10	南部児童センター	99	14, 448	115	16, 228	98	14, 660
11	大豆島児童センター	237	30, 961	217	29, 979	228	33, 618
12	朝陽児童センター	98	12, 888	—	—	—	—
13	柳原児童センター	80	12, 555	79	13, 816	95	14, 382
14	長沼児童センター	59	8, 429	59	9, 348	57	8, 402
15	古里児童センター	168	23, 763	170	22, 484	142	19, 416
16	若槻児童館	65	9, 179	65	8, 067	49	5, 719
17	徳間児童センター	114	19, 624	119	19, 461	110	17, 249
18	浅川児童センター	34	4, 344	42	5, 471	33	4, 140
19	芋井児童センター	18	2, 556	18	3, 114	14	2, 414
20	安茂里児童センター	82	10, 448	82	12, 475	89	11, 910
21	松ヶ丘児童センター	41	6, 254	38	6, 415	46	7, 828
22	篠ノ井中央児童センター	151	21, 573	170	26, 504	137	25, 168
23	篠ノ井東児童センター	100	12, 898	102	14, 628	99	13, 160
24	篠ノ井西児童センター	68	10, 552	68	15, 847	60	10, 991
25	共和児童センター	117	22, 661	123	22, 342	112	21, 782
26	塩崎児童館	52	8, 758	41	6, 617	46	6, 651
27	松代花の丸児童センター	91	11, 941	91	13, 318	99	12, 869
28	豊栄児童館	43	5, 323	38	3, 342	26	2, 964
29	松代東条児童センター	56	8, 676	50	8, 982	66	11, 818
30	綿内児童センター	124	19, 310	128	17, 770	93	15, 438
31	川田児童館	81	10, 796	—	—	—	—
32	保科児童センター	63	6, 039	53	6, 252	57	5, 945
33	昭和児童センター	193	24, 875	171	23, 493	196	27, 050
34	川中島児童センター	108	15, 381	92	15, 803	92	14, 278
35	青木島児童センター	107	14, 346	107	16, 375	143	20, 118
36	下氷鉋児童センター	112	17, 929	99	14, 873	95	13, 392
37	三本柳児童センター	156	24, 370	162	27, 294	144	23, 469
合 計		3, 446	490, 092	3, 357	503, 536	3, 131	466, 459

※ 登録児童数は各年度 4 月 1 日現在

※ 吉田児童センターは指定管理者の交代に伴い、令和 2 年度の実績は記載していない。

2 放課後子どもプラザの管理経営状況（プラザ 48 施設）

（単位：人）

No.	名 称	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
		登録 児童数	年間延べ 利用児童数	登録 児童数	年間延べ 利用児童数	登録 児童数	年間延べ 利用児童数
1	城山子どもプラザ	121	11,489	140	14,531	161	17,697
2	鍋屋田子どもプラザ	110	10,870	114	11,491	107	11,042
3	加茂子どもプラザ	62	6,286	54	5,671	44	4,791
4	山王子子どもプラザ	121	14,264	109	13,197	94	13,195
5	芹田子どもプラザ	324	34,153	298	36,932	332	42,998
6	古牧子どもプラザ	122	10,031	130	12,265	144	12,512
7	緑ヶ丘子どもプラザ	166	13,005	136	13,933	140	15,624
8	三輪子どもプラザ	100	9,937	83	7,444	93	6,680
9	吉田子どもプラザ	—	—	172	12,192	174	11,832
10	裾花子どもプラザ	170	15,773	178	17,874	181	17,225
11	城東子どもプラザ	79	3,750	49	3,841	136	16,443
12	湯谷子どもプラザ	91	5,199	84	6,494	86	5,143
13	南部子どもプラザ	183	17,221	150	16,064	143	14,437
14	大豆島子どもプラザ	145	10,824	151	15,341	150	13,416
15	朝陽子どもプラザ	129	6,037	213	24,810	218	25,923
16	柳原子どもプラザ	101	7,689	87	10,638	98	11,214
17	古里子どもプラザ	128	9,024	137	11,446	171	11,060
18	若槻子どもプラザ	125	14,639	126	16,193	125	13,461
19	徳間子どもプラザ	171	17,263	159	18,233	170	14,416
20	浅川子どもプラザ	90	9,404	82	9,137	76	10,642
21	安茂里子どもプラザ	48	2,831	32	3,383	38	1,718
22	松ヶ丘子どもプラザ	74	7,419	61	6,906	57	5,343
23	通明子どもプラザ	201	18,197	163	18,880	231	21,399
24	篠ノ井東子どもプラザ	152	11,613	158	13,600	162	11,930
25	篠ノ井西子どもプラザ	252	34,215	219	37,800	241	38,252
26	共和子どもプラザ	110	11,552	102	11,371	92	9,263
27	信里子どもプラザ	33	5,560	33	6,258	31	5,596
28	塩崎子どもプラザ	69	9,027	87	10,021	80	7,570
29	松代花の丸子どもプラザ	35	1,967	27	2,300	27	1,532
30	清野子どもプラザ	27	3,686	28	3,785	26	3,137
31	西条子どもプラザ	44	5,412	50	6,904	56	5,999
32	東条子どもプラザ	30	2,601	28	2,441	23	967
33	寺尾子どもプラザ	78	8,349	64	9,070	76	10,403
34	綿内子どもプラザ	32	1,538	14	4,359	67	7,504
35	川田子どもプラザ	—	—	90	9,901	75	9,263
36	昭和子どもプラザ	91	6,647	89	8,378	103	7,504
37	川中島子どもプラザ	135	11,153	107	10,983	128	11,485

No.	名 称	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
		登録 児童数	年間延べ 利用児童数	登録 児童数	年間延べ 利用児童数	登録 児童数	年間延べ 利用児童数
38	青木島子どもプラザ	81	9,841	110	9,657	98	7,889
39	下氷鮑子どもプラザ	113	12,291	123	13,267	133	12,253
40	三本柳子どもプラザ	157	11,027	139	11,879	141	12,310
41	真島子どもプラザ	62	8,481	65	8,046	60	7,863
42	七二会子どもプラザ	23	2,266	18	2,587	19	3,096
43	信更子どもプラザ	28	4,174	26	4,129	19	3,548
44	戸隠子どもプラザ	39	3,585	31	4,098	38	4,979
45	鬼無里子どもプラザ	20	3,259	22	4,053	18	3,461
46	大岡子どもプラザ	12	1,662	12	2,188	12	2,251
47	信州新町子どもプラザ	57	5,562	46	5,483	43	4,144
48	中条子どもプラザ	39	3,705	34	4,600	32	4,486
合 計		4,581	434,478	4,630	514,054	4,969	514,896

※ 登録児童数は各年度 4 月 1 日現在

※ 吉田子どもプラザは指定管理者の交代に伴い、令和 2 年度の実績は記載していない。

5 地域福祉課（地域福祉担当）

資料⑮ No(2)福祉のまちづくりを進めるための実践事業及び小地域福祉懇談会助成事業実績

事業名	実施数	助成金額
(1)福祉のまちづくり啓発事業	21 地区	610,000 円
(2)地域福祉懇談会事業	20 地区	352,643 円
(3)介護者支援事業	16 地区	292,053 円
(4)福祉推進員活動事業	26 地区	592,648 円
(5)男性地域デビュー促進事業	19 地区	313,234 円
(6)きぼうの旅事業	2 地区	66,500 円
(7)サロン事業	338 グループ	3,385,085 円
(8)福祉自動車運行事業	25 地区	7,496,000 円
(9)子育て・子育て支援事業	20 地区	787,002 円
(10)地区独自課題対応事業	27 地区	1,457,425 円
合 計		15,352,590 円 令和3年度(14,704,633 円)

資料⑯ No(5)地域たすけあい事業実績

(単位：件・人)

年 度		令和2年度	令和3年度	令和4年度
項 目				
サービス総実施件数		31,397 件	30,935 件	33,204 件
内 訳	家事援助サービス	3,864 件	4,988 件	6,022 件
	福祉移送サービス	27,533 件	25,947 件	27,182 件
利用会員数		2,965 人	2,091 人	2,430 人
協力会員数		529 人	539 人	601 人

資料⑰ No(10)老人福祉センター等管理経営事業等の実施実績

1 高齢者生きがづくり事業及びボランティアコーディネート事業実績

項 目 施 設	年 間 件 数					年間利用者数(人)		
	教養・生きがづくり講座	地域福祉活動	グループ・団体活動	その他の事業	計	令和2年度	令和3年度	令和4年度
三 陽	243	77	560	539	1,419	7,941	6,796	9,727
安茂里	256	118	400	387	1,161	7,376	6,020	6,756
氷 鮑	252	30	711	709	1,702	11,256	9,613	12,970
鬼無里	68	5	83	179	335	2,310	1,945	2,047
信州新町	311	13	216	114	654	2,995	2,843	3,423
中 条	79	82	13	211	385	1,592	1,382	1,470
合 計	1,209	325	1,983	2,139	5,656	33,470	28,599	36,393

※延べ実施回数及び人数

2 氷鉋老人憩の家利用実績

年 度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
利 用 者 数	5,440	3,890	4,366

※延べ人数

6 地域福祉課（生活あんしん担当）

資料⑱ No(1)長野市権利擁護センター事業実績

1 長野市成年後見支援センター相談対応件数

年 度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
件 数	1,544	1,362	2,542	2,279	2,403

資料⑲ No(2)法人後見担当室 法人後見受任件数

		令和 2 年度			令和 3 年度			令和 4 年度		
		新規	終了	累計	新規	終了	累計	新規	終了	累計
法定	後見	12	10	56	21	9	68	9	9	68
	保佐	10	3	27	5	1	31	4	6	29
	補助	5	1	16	0	0	16	0	2	14
	計	27	14	99	26	10	115	13	17	111
任意後見		2	0	10	0	0	10	3	0	13
合 計		29	14	109	16	10	125	16	17	124

資料⑳ No(3)「おひとりさま」あんしんサポート相談室相談対応件数

年 度	令和 3 年度	令和 4 年度
件 数	508	1,392

※令和 3 年度は、開室の 10 月～3 月の数値

資料㉑ No(4)日常生活自立支援事業実績

1 実績

項 目		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
相談件数	本 部	18,280	18,031	29,637
	みなみ出張所	7,763	8,829	9,625
	合計	26,043	26,860	39,262
契約件数	本 部	14	14	13
	みなみ出張所	5	11	9
	合計	19	25	22
事業開始からの延べ契約件数 ※		504	529	551

※平成 11 年 10 月より事業開始

2 契約件数内訳

年度 対象区分	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	新規	解約	累計	新規	解約	累計	新規	解約	累計
認知症	7	8	41	10	13	38	6	10	34
知的障害	6	5	78	9	4	83	7	5	85
精神障害	6	7	75	6	6	75	9	3	81
その他	0	1	2	0	2	0	0	0	0
合計	19	21	196	25	25	196	22	18	200

資料② No(5)暮らしのあんしんサービス事業実績

1 相談件数

年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
相談件数	1,862	2,238	3,060

2 契約件数内訳

年度 契約内容	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	新規	解約	累計	新規	解約	累計	新規	解約	累計
金銭管理	2	10	25	10	4	31	17	10	38
財産保全	1	3	6	1	1	6	2	3	5
合計	3	13	31	11	5	37	19	13	43

資料③ No(7)長野市生活就労支援センター「まいさぼ長野市」運営事業

1 自立相談支援事業

項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
相談件数（延べ）	14,909	15,047	16,248
相談者数（実数）	2,615	2,158	2,053
新規相談者数（実数）	2,179	1,214	1,195
就労者数（実数）	187	182	141

※相談者数は関係機関も含む

2 家計改善支援事業

項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
相談件数（延べ）	1,724	2,355	2,234
新規相談者数（実数）	188	127	34
事業利用件数（延べ）	39	47	43

※相談者数は関係機関も含む

※事業利用件数＝プラン作成件数

3 就労訓練支援事業

項 目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
相談・助言・開拓等 件数（延べ）	831	522	703
認定就労訓練事業所新 規登録件数	2	1	3
就労訓練事業利用申込 件数（延べ）	5	5	4
就労準備支援事業利用 申込件数（延べ）	1	3	1

4 アウトリーチ等の充実による自立相談支援機能強化事業（令和 4 年度新規事業）

項 目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
相談件数（延べ）	-	-	1,183
相談者数（実数）	-	-	86
新規相談者数（実数）	-	-	59

5 自立相談支援の機能強化事業（令和 4 年度新規事業／1 月～3 月のみ実施）

項 目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
相談件数（延べ）	-	-	142

6 社協内「フードドライブ（食糧支援）」

項 目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
寄付件数（延べ）	208	337	352
提供件数（延べ）	379	651	647

○フードドライブ活動団体連絡会議に参画、年 3 回期間を定め集中募集を実施

○新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、年末に「お米配布事業」を実施、相談者だけでなく希望する市民にお米の無料配布を実施

7 長野県あんしん未来創造センター事業（包括的相談支援/生活支援/就労支援プロジェクト） （旧長野県あんしん創造ねっと／令和 4 年 10 月より名称変更）

項 目	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
入居保証・生活支援事業利用件数 （公営住宅）	25	35	38
入居保証・生活支援事業利用件数 （民間賃貸住宅）	5	7	10
身元保証・就労支援事業利用件数	0	1	0
生活改善利用件数	0	5	6
就労支援利用件数	19	10	6

8 重層的支援体制整備事業へ移行準備事業（多機関の協働による包括的支援体制構築事業）

項 目	令和 3 年度	令和 4 年度
新規相談件数（実数）	132	96
他機関との会議及び電話照会・協議（延べ）	934	1,201
連携した機関数（延べ）	618	579

資料②④ No (8) 生活福祉資金貸付事業実績

（金額：円）

年度 資金種別	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
相談件数（延べ）	5,643		4,414		2,266	
総合支援資金	927	442,202,000	737	381,870,000	77	37,310,000
福祉資金	1,205	182,122,000	405	64,058,000	142	25,783,000
教育支援資金	21	8,244,000	9	4,760,000	7	3,073,000
不動産担保型生活資金	0	0	1	12,490,000	1	12,579,000
臨時特例つなぎ資金	0	0	0	0	0	0
合 計	2,153	632,568,000	1,152	463,178,000	227	78,745,000

資料②⑤ No (8) 助け合い資金貸付事業実績

（金額：円）

年度	貸付額		前期末未償還額		当期償還金額		不納欠損処理額		未償還残額	
	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額	人員	金額
平成 13 年度	1	50,000	1	41,500	1	2,000	0	0	1	39,500
平成 14 年度 ～26 年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	50,000	1	41,500	1	2,000	0	0	1	39,500

※生活福祉資金貸付事業の対象要件が緩和・拡大されたことにより、平成 27 年度以降貸付停止。

資料②⑥ No (9), (10) きぼう相談事業及び法律相談事業実績

1 相談件数

年 度			令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
実 施 状 況					
きぼう相談	一般相談	本部 毎週 火・金曜日 9:00 ～ 16:00	1,377	1,351	1,567
	一般相談	篠ノ井 毎週 月曜日 9:00 ～ 16:00	451	546	383
	合 計		1,828	1,897	1,950
専門相談	法律相談	本部 毎月 第 3 金曜日 13:00 ～ 15:00	40	43	36

2 きぼう相談内容内訳

内 容	住まい 暮らし・	健康	人間関係	法律	紹介・ 問合せ	よろず	相談所への 問合せ等	その他	合計
令和2年度	46	88	133	62	22	1,238	194	45	1,828
令和3年度	64	89	156	63	33	1,283	196	13	1,897
令和4年度	55	103	135	51	45	1,375	165	21	1,950

資料⑲ No(11) デイケア事業活動実績

項 目	ちぎり絵	書道	居場所
活動日数	22	48	23
参加人数（延べ）	22	130	64

※煎茶デイケアについては、新型コロナウイルス感染症の影響により休止中

○行事等 熊野書道作品展（6月、1月）、市民書道展（11月）

資料⑳ No(13) 長野市生活支援・地域ささえあいセンター事業実績

1 応急仮設住宅入居状況

時 点	建設型 仮設住宅	借上型仮設住宅 （みなし仮設）	公営住宅 一時使用	計
令和4年4月1日	2	30	1	33
令和5年3月31日	0	0	0	0

2 支援件数

住宅種別	訪問	電話	来所	その他	合計
建設型仮設住宅	17	2	0	9	28
借上型仮設住宅	14	11	0	20	45
公営住宅一時使用		1	0	1	2
在宅・その他	65	25	1	91	182
再 建 済	1,041	160	7	1,478	2,686
計	1,137	199	8	1,599	2,943

3 相談内容

健康医療	542	地域活動	871
家族	327	日常生活	996
居住（仮設）	2	社会的関わり	108
居住（再建）	67	経済面	42
介護・福祉	173	精神面	44
就労	49	その他	23
法律・制度	39	計	3,283

4 つなぎ先

行政	84	障害者支援機関	0
保健師	321	子ども・子育て支援機関	0
地域包括支援センター	281	医療機関	8
社会福祉協議会	88	就労支援機関	4
民生委員・児童委員	159	NPO等の団体	1
介護事業所	134	その他	197
		計	1,277

5 サロン実施状況

	被災地区	災害公営住宅	計
設 置 数	1ヶ所	1ヶ所	2ヶ所
回 数	47回	51回	98回
参 加 者	250人	902人	1,152人

長沼交流ハウスで週1回定例開催

7 地域福祉課（ボランティア担当）

資料② No(1) ボランティアコーディネート事業実績

1 件数

項目 \ 年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
相談・調整件数	13,488	7,642	7,042

2 内訳

項 目		令和2年度	令和3年度	令和4年度
調 整 件 数	ボランティアしたい	150	141	113
	ボランティア求む	65	68	44
	情報求む	157	107	59
	ボランティア活動支援	91	58	57
	ボランティア活動上の悩み	18	11	4
	よろず相談・悩み	30	33	38
	ボランティア保険・事故処理	27	31	15
	ボランティアセンター事業	94	79	74
	福祉共育	53	59	39
	ボランティア活動要請	31	4	26
	寄付関係	76	42	52
	その他	61	34	44
	計	853	667	565

項 目		令和2年度	令和3年度	令和4年度
簡易相談件数	情報提供	820	330	307
	チラシ・掲示	324	231	220
	機材貸出	830	560	422
	会議室予約	2,387	1,628	1,345
	伝言	991	554	390
	よりいい会	2,683	1,856	2,040
	その他	4,600	1,816	1,753
	計	12,635	6,975	6,477
合 計		13,488	7,642	7,042

資料③ No(3) ボランティア活動機材の貸し出し事業実績

機材名	件数	機材名	件数	機材名	件数
車椅子	57件 (170台)	アイマスク	3件 (107枚)	白杖	6件 (93本)
点字板	4件 (59枚)	コピー機	477件	印刷機	379件
その他	125件				

資料④ No(5) ボランティア・地域づくり講座の開催事業実績

	日時	テーマ・内容	講師	参加者(※1)
1	5月23日(月) 13:30～16:30	ボランティアってなんだろう？ 地域活動を始めるとき、ボランティアがなんなのか？よくわからないという声を聞きます。様々な制度や資源がある中、なぜボランティアが必要なのか？そもそもボランティアとはなにか？を学びます。	筒井のり子氏 (龍谷大学・JVCA)	22名 内訳 Zoom 12名 (アカウント7) 視聴会場 10名
2	6月29日(水) 13:30～16:00	関係づくり基本のキ ～人の話を聴く方法～ 生きていくと色々な人がいますよね。地域活動やボランティア活動では、色々な方と関わります。活動の基本である『聴く』を学びます。	末松渉氏 (臨床心理士、公認心理士、東京いのちの電話理事長)	100名 内訳 Zoom 76名 (アカウント20) 視聴会場 24名
3	8月8日(月) 14:00～16:00	暮らしに役立つ グラフィックレコーディング 話し合いをしても何を話していたかわからなくなる。そんなことはありませんか？グラフィックレコーディングとは文字や絵を使い会議を可視化する技術です。絵が苦手という人も大丈夫。一緒に学びましょう。	三澤好美氏 (杜のくじら舎)	36名 内訳 Zoom 28名 (アカウント11) 視聴会場 8名
4	9月28日(水) 13:30～17:00	ワガゴト化？ みんなで取り組むための対話作り グループや会議で話し合う時に、自分だけ話している、周りの人が協力してくれない、そんな風になる事ありませんか？どのように進めれば参加者が当事者意識を持った話し合いが進められるのかを学びます。	松田道雄氏 (尚絅学院大学教授、山形県ボランティア・市民活動振興センター運営委員)	50名 内訳 Zoom 43名 (アカウント16) 視聴会場 7名

	日時	テーマ・内容	講師	参加者(※1)
5	10月13日(木) 13:30~16:00	活動はどのように起きるのか？ 人はどうすると集まるのか？ 募集しても人が来ない。どのようにすれば活動が起きるのかわからない。そんな悩みありませんか？ 事例を通じて活動の起こし方を学びます。	山崎亮氏 (studio-L、 コミュニティ デザイナー、 社会福祉士)	44名 内訳 Zoom 38名 (アカウント15) 視聴会場 6名
6	11月15日(火) 13:30~17:00	多文化共生を支える ～いろいろな人と暮らしていくには～ 長野市に住む在住外国人は4000人を超えており、100人に1人は日本以外の国にルーツを持っています。あなたが支援している人やボランティアグループに来た人が日本以外のルーツであった場合どのようなことを大切にしますか？一緒に考えましょう。	春原直美氏 (長野県多文化 共生相談セン ター 前セン ター長) 岡宮美樹氏 (地域日本語 教育コーディネーター、 にほんごプラス 代表)	24名 内訳 Zoom 12名 (アカウント7) 視聴会場 12名
7	1月23日(月) 13:30~15:30	個人情報ってどこまで？ 支援を必要としている方の情報を支援者で共有したいけど、どこまで話していいの？ボランティア活動先で聞いた話は「個人情報」？関係者で共有していいの？そんな疑問ありませんか？一緒に勉強しましょう！	中畠知文氏 (中畠法律事 務所)	59名 内訳 Zoom 42名 (アカウント22) 視聴会場 17名
8	2月17日(金) 13:30~16:00	「自分たちだけの活動だけで 終わらせないつながりづくり」 ～「地域共生のまちづくり」はじめてみませんか？～ 「地域共生」について学びながら「つながり・学び・支え合う」実践を知り、参加者同士が「情報・資源」を出し合い、つながることを目指して開催します。	山口光治氏 (淑徳大学学 長)	59名 内訳 Zoom 35名 (アカウント17) 視聴会場 24名
	計			394名 内訳 Zoom 286名 (アカウント115) 視聴会場 108名

※1 参加者数内訳

「Zoom」は、地区・団体での集団及び個人受講者数

「アカウント」は、ログインアカウント数

「視聴会場」は、ふれあい福祉センターの視聴会場参加者数

8 介護サービス課

資料③ No(15) 居宅介護支援事業実績

1 体制

事業所名	介護支援専門員数	車両台数	備考
ふれあい介護サービスセンター 居宅介護支援事業所	5	5	外兼務2人、特事
三陽介護サービスセンター 居宅介護支援事業所	3	2	特事
吉田介護サービスセンター 居宅介護支援事業所	5	3	特事
安茂里介護サービスセンター 居宅介護支援事業所	8	6	特事
篠ノ井介護サービスセンター 居宅介護支援事業所	5	5	特事
豊野介護サービスセンター 居宅介護支援事業所	3	3	外兼務1人、特事
鬼無里介護サービスセンター 居宅介護支援事業所	2	1	外兼務1人
大岡介護サービスセンター 居宅介護支援事業所	2	1	外兼務1人
中条介護サービスセンター 居宅介護支援事業所	3	3	特事
合 計	36 (37)	29 (29)	

※（ ）内数字は、令和3年度

※常勤職員数は令和5年3月31日現在の人数（以下同様）

※備考欄「特事」は特定事業所

2 実績

事業所名	利用（居宅サービス計画作成）件数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ふれあい	2,529	2,209	2,272
三陽	1,272	986	1,081
吉田	1,710	1,518	1,806
安茂里	2,653	2,666	2,706
篠ノ井	1,729	1,675	1,700
豊野	724	1,364	1,400
鬼無里	936	965	1,048
大岡	508	517	572
信州新町	290	307	—
中条	666	717	1,113
合 計	13,017	12,974	13,698

※信州新町は令和4年4月1日に中条と統合したため、令和4年3月31日までの実績。

3 要介護認定調査業務実績

事業所名	認定調査件数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ふれあい	1	6	0
三陽	1	0	0
吉田	1	0	0
安茂里	1	1	0
篠ノ井	1	0	0
豊野	0	0	0
鬼無里	0	0	0
信州新町	0	0	—
中条	0	0	0
合 計	5	7	0

※信州新町は令和4年4月1日に中条と統合したため、令和4年3月31日までの実績。

資料③ No(15) 介護予防支援業務の受託（介護給付）サービス事業実績

居宅介護支援事業所名	利用（介護予防サービス計画作成）件数		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ふれあい	98	157	208
三陽	1	60	82
吉田	0	25	46
安茂里	209	331	257
篠ノ井	193	299	346
豊野	0	5	32
鬼無里	115	57	59
大岡	461	453	573
信州新町	58	86	—
中条	275	289	326
合 計	1,410	1,762	1,929

※信州新町は令和4年4月1日に中条と統合したため、令和4年3月31日までの実績。

資料④ No(16) 訪問介護事業実績

1 体制

事業所名	常勤職員数	車両台数	備 考
ふれあい介護サービスセンター 訪問介護事業所	1	3	外兼務5人、特事
東長野介護サービスセンター 訪問介護事業所	6	8	特事
安茂里介護サービスセンター 訪問介護事業所	7	6	特事
篠ノ井介護サービスセンター 訪問介護事業所	4	4	外兼務1人、特事
戸隠介護サービスセンター 訪問介護事業所	3	4	特事

事業所名	常勤職員数	車両台数	備考
戸隠介護サービスセンター 鬼無里サテライト訪問介護事業所	1	2	特事
信州新町介護サービスセンター 訪問介護事業所	2	5	特事
信州新町介護サービスセンター 中条サテライト訪問介護事業所	0	2	
合 計	24 (24)	34 (33)	

※（ ）内数字は、令和3年度

※備考欄「特事」は特定事業所

2 訪問介護実績

事業所名	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数
東長野	640	9,896	642	8,450	672	8,065
安茂里	449	6,114	432	5,489	525	6,590
篠ノ井	322	4,205	296	3,847	269	3,366
戸 隠	469	6,886	467	7,268	489	8,223
信州新町	443	4,329	467	4,400	539	4,876
合 計	2,323	31,430	2,304	29,454	2,494	31,120

※利用人数は、月毎の実利用人数合算数値

3 介護予防訪問介護相当サービス実績

事業所名	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数
ふれあい	376	1,992	390	2,032	406	2,140
安茂里	187	1,089	198	1,130	214	985
篠ノ井	203	1,306	178	1,112	138	874
戸 隠	42	209	64	394	83	483
信州新町	225	1,166	208	1,132	138	660
合 計	1,033	5,762	1,038	5,800	979	5,142

※利用人数は、月毎の実利用人数合算数値

資料③ No(17) 通所介護事業実績

1 体制

事業所名	常勤職員数	車両台数	備考
三陽介護サービスセンター 通所介護事業所	4	5	外兼務1人
柳町介護サービスセンター 通所介護事業所	8	6	外兼務1人
吉田介護サービスセンター 通所介護事業所	7	6	外兼務1人
安茂里介護サービスセンター 通所介護事業所	8	8	外兼務1人

事業所名	常勤職員数	車両台数	備考
篠ノ井介護サービスセンター 通所介護事業所	5	7	外兼務 2 人
氷鉋介護サービスセンター 通所介護事業所	6	5	
戸隠介護サービスセンター 通所介護事業所	3	6	外兼務 1 人
鬼無里介護サービスセンター 通所介護事業所	3	6	外兼務 2 人
中条介護サービスセンター 通所介護事業所	3	8	外兼務 4 人
中条介護サービスセンター 大岡サテライト通所介護事業所	0	3	
合 計	47 (52)	60 (58)	

※ () 内数字は、令和 3 年度

2 通所介護事業実績

事業所名	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数
三 陽	411	3,741	—	—	—	—
柳 町	1,140	8,944	1,087	9,060	1,001	8,013
芋 井	—	—	—	—	—	—
吉 田	991	9,239	996	8,928	879	7,949
安茂里	1,387	10,733	1,360	10,216	1,432	10,494
篠ノ井	923	6,938	965	7,153	966	7,179
氷 鉋	599	5,323	685	5,522	658	5,174
中 条	590	4,028	807	5,165	836	5,359
合 計	6,041	48,946	5,900	46,044	5,772	44,168

※利用人数は、月毎の実利用人数合算数値

※芋井は、柳町介護サービスセンター通所介護事業所のサテライトで平成 28 年度から休止していたが、令和 2 年 9 月をもって廃止。

※令和 2 年 12 月に三陽は地域密着型へ移行。

※中条は、令和 3 年 4 月 1 日から大岡をサテライトとした。

3 地域密着型通所介護実績

施設名	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数
三陽	159	1,393	509	3,855	552	4,513
戸隠	453	4,612	439	4,164	414	3,911
鬼無里	592	4,036	555	3,939	546	3,796
大岡	284	1,789	—	—	—	—
合 計	1,488	11,830	1,503	11,958	1,512	12,220

※令和 2 年 12 月より三陽は地域密着型へ移行。

※大岡は、令和 3 年 4 月 1 日から中条のサテライトとしたため、令和 2 年度までの実績。

4 介護予防通所介護相当サービス実績

事業所名	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数
三 陽	1	4	42	228	66	378
柳 町	406	2,198	374	1,918	415	1,978
芋 井	—	—	—	—	—	—
吉 田	234	1,508	249	1,414	250	1,479
安茂里	493	2,647	433	2,308	340	1,746
篠ノ井	369	2,001	467	2,412	446	2,339
氷 鮑	309	1,741	303	1,614	358	1,721
戸 隠	50	301	13	50	14	56
鬼無里	73	329	54	206	53	227
大 岡	331	1,472	—	—	—	—
中 条	312	1,539	586	2,705	573	2,534
合 計	2,578	13,740	2,521	12,855	2,515	12,458

※利用人数は、月毎の実利用人数合算数値

※芋井は、柳町介護サービスセンター通所介護事業所のサテライトで平成28年度から休止していたが、令和2年9月をもって廃止。

※三陽は、令和2年10月1日からサービス提供開始

※大岡は、令和3年4月1日から中条のサテライトとしたため、令和2年度までの実績。

資料③⑥ No(18) 短期入所生活介護事業実績

1 体制

施 設 名	利用定員	常勤職員数	車両台数	備考
鬼無里介護サービスセンター やすらぎ	8	1	1	外兼務4人
大岡介護サービスセンター ことぶき荘	9	4	1	
合 計	17 (17)	5 (6)	2 (2)	

※（ ）内数字は、令和3年度

2 短期入所生活介護実績

施設名	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数
鬼無里やすらぎ	232	2,956	206	2,930	214	2,973
大岡ことぶき荘	218	2,731	214	2,536	221	2,769
合 計	450	5,687	420	5,466	435	5,742

※利用人数は、月毎の実利用人数合算数値

3 介護予防短期入所生活介護実績

施設名	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数
鬼無里やすらぎ	0	0	0	0	0	0
大岡ことぶき荘	15	102	13	102	3	7
合 計	15	102	13	102	3	7

※利用人数は、月毎の実利用人数合算数値

資料③⑦ No(19) 認知症対応型共同生活介護事業実績

1 体制

施設名	利用定員	常勤職員数	備考
鬼無里介護サービスセンター なかよしハウス	6 (6)	2 (2)	

※（ ）内数字は、令和3年度

2 実績

施設名	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数
鬼無里なかよしハウス	73	2,145	72	2,161	75	2,081

※利用人数は、月毎の実利用人数合算数値

資料③⑧ No(20) 訪問看護事業実績

1 体制

事業所名	常勤職員数	車両台数
戸隠介護サービスセンター 訪問看護事業所	2 (2)	2 (2)

※（ ）内数字は、令和3年度

2 実績

事業所名		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
戸隠介護サービスセンター 訪問看護事業所		利用 人数	利用 回数	利用 人数	利用 回数	利用 人数	利用 回数
サー ビス	訪問看護	230	1,164	307	1,606	316	1,450
	介護予防訪問看護	52	152	19	97	13	88
	訪問看護療養	22	142	24	121	49	296

資料③⑨ No(21)、(22)、(23) 障がい福祉サービス事業実績

居宅介護・重度訪問介護・同行援護サービス実績

事業所名	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数
東長野	585	6,042	573	5,455	558	4,774
安茂里	130	1,907	133	1,880	145	1,946

事業所名	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数
篠ノ井	352	2,855	330	2,691	340	2,509
戸隠	167	2,215	158	2,043	147	1,763
信州新町	108	2,091	108	1,937	102	1,917
合 計	1,342	15,110	1,302	14,006	1,292	12,909

※利用人数は、3つのサービスにおける月毎の実利用人数合算数値。

資料④① No (25) 長野市移動支援サービス事業実績

移動支援サービス	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数
	83	512	75	439	65	373

※利用人数は、月毎の実利用人数合算数値

資料④① No (26) 高齢者生活福祉センター受託事業実績

施 設 名	定員	項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
鬼無里高齢者生活福祉センター (通称：やすらぎ)	19 人	実利用人数	16	14	10
		月平均利用人数	10.8	10.3	8.3
		延べ利用日数	3,688	3,455	2,889
大岡高齢者生活福祉センター (通称：ことぶき荘)	9 人	実利用人数	5	5	5
		月平均利用人数	2.9	3.8	4.1
		延べ利用日数	1,006	1,310	1,451
中条高齢者生活福祉センター (通称：いこいハウス)	6 人	実利用人数	8	9	7
		月平均利用人数	6.6	6.6	5.3
		延べ利用日数	2,113	2,037	1,701

資料④② No (27) 高齢者共同生活支援施設受託事業実績

施 設 名	定員	項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
戸隠栃原高齢者共同生活支援施設 (通称：ひまわり1号)	6 人	実利用人数	9	6	6
		月平均利用人数	2.8	2.1	2.3
		延べ利用日数	908	613	674
		食事提供食数	2,455	1,647	1,874
戸隠豊岡高齢者共同生活支援施設 (通称：ひまわり2号)	8 人	実利用人数	16	13	12
		月平均利用人数	4.4	4.5	3.9
		延べ利用日数	1,388	1,496	1,236
		食事提供食数	3,939	3,942	3,468

資料④ No (28) 地域包括支援センター（指定介護予防支援事業、包括的支援事業、介護予防教室事業及び介護者教室事業）実績

1 体制

事業所名	常勤職員数	職員内訳		車両台数
地域包括支援センター 安茂里	5 (5)	介護支援専門員 [うち主任介護支援専門員]	3 [2]	3 (3)
		保健員（看護師）	1	
		社会福祉員（社会福祉士）	1	
地域包括支援センター 豊野サブセンター	3 (3)	介護支援専門員 [うち主任介護支援専門員]	2 [2]	2 (2)
		保健員（看護師）	0	
		社会福祉員（社会福祉士）	1	
地域包括支援センター 吉田	4 (4)	介護支援専門員 [うち主任介護支援専門員]	2 [2]	3 (3)
		保健員（看護師）	1	
		社会福祉員（社会福祉士）	1	

※（ ）内数字は、令和3年度

2 実績

ア 相談件数

事業所名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
安茂里	2,204	2,951	2,624
豊野サブ	782	778	682
吉田	2,189	1,695	2,005
合 計	5,175	5,424	5,311

相談の内容

項 目	令和2年度			令和3年度			令和4年度		
	安茂里	豊野	吉田	安茂里	豊野	吉田	安茂里	豊野	吉田
介護保険関係	1,238	483	1,740	2,061	573	1,297	1,841	400	1,520
その在宅福祉サービス	547	129	93	1,094	45	131	1,212	133	257
医療に関すること	331	59	393	625	47	152	447	93	287
施設・住まいに関する こと	183	47	163	499	22	172	539	26	152
高齢者虐待	33	37	39	162	2	20	190	3	53
成年後見制度	34	13	8	140	2	7	90	11	5
消費者被害	8	0	1	2	0	2	2	0	2
苦情対応・調整	7	2	2	22	3	11	26	1	4
その他	134	97	44	994	162	321	1069	165	215
合 計	2,515	867	2,483	5,599	856	2,113	5,416	832	2,495

※1件の相談で内容が多岐にわたる場合、それぞれの項目でカウントしているため、合計は前表の相談件数と一致しない。

イ 高齢者実態把握人数

事業所名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
安茂里	200	—	—
豊野サブ	81	—	—
吉田	170	—	—
合 計	451	—	—

ウ 介護予防把握人数

事業所名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
安茂里	—	32	163
豊野サブ	—	6	75
吉田	—	118	22
合 計	—	156	260

エ 介護予防サービス計画書作成件数 ※居宅介護支援事業所へ業務委託分は除く

事業所名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
安茂里	1,461	1,338	1,356
豊野サブ	478	513	512
吉田	1,031	928	883
合 計	2,970	2,779	2,751

オ 介護予防ケアマネジメント作成件数 ※居宅介護支援事業所へ業務委託分は除く

事業所名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
安茂里	1,514	1,354	1,316
豊野サブ	196	203	304
吉田	624	641	792
合 計	2,334	2,198	2,412

カ 地域包括ケア推進ネットワーク会議

事業所名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
安茂里	1	2	8
豊野サブ	1	2	3
吉田	1	0	5
合 計	3	4	16

キ 介護者教室

事業所名		令和2年度	令和3年度	令和4年度
安茂里	開催回数	2	3	3
	参加人数	38	39	29
豊野サブ	開催回数	3	2	3
	参加人数	49	20	32
吉田	開催回数	3	1	3
	参加人数	29	23	112
合計	開催回数	8	6	9
	参加人数	116	82	173

ク 介護予防教室

事業所名		令和2年度	令和3年度	令和4年度
安茂里	開催回数	11	13	—
	参加人数	82	112	—
豊野サブ	開催回数	9	5	—
	参加人数	68	38	—
吉田	開催回数	4	10	—
	参加人数	46	79	—
合計	開催回数	24	28	—
	参加人数	196	229	—

資料④ No(29) 在宅介護支援センター(在宅介護に関する総合相談事業、高齢者実態把握調査事業、介護予防教室事業及び介護者教室事業) 事業実績

1 体制

事業所名	常勤職員数	車両台数	備考
鬼無里在宅介護支援センター	3	1	兼務3人
大岡在宅介護支援センター	3	1	兼務2人
合 計	6 (6)	2 (2)	

※ () 内数字は、令和3年度

2 実績

ア 相談件数

事業所名	令和2年度	令和3年度	令和4年度
鬼無里	806	712	512
大岡	407	482	367
合 計	1,213	1,194	879

相談の内容

項 目	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
	鬼無里	大岡	鬼無里	大岡	鬼無里	大岡
介護保険関係	311	142	418	133	353	86
その他在宅福祉サービス	475	119	602	251	458	177
医療に関すること	225	254	249	368	202	265
施設・住まいに関すること	89	7	83	17	71	1
高齢者虐待	6	0	0	0	0	0
成年後見制度	0	0	2	3	1	0
消費者被害	1	4	0	7	0	1
苦情対応・調整	0	7	0	2	0	0
その他	180	188	260	264	336	266
合 計	1, 287	721	1, 614	1, 045	1, 421	796

※ 1 件の相談で内容が多岐にわたる場合、それぞれの項目でカウントしているため、合計は前表の相談件数と一致しない。

イ 高齢者実態把握件数

事業所名	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
鬼無里	380	282	226
大岡	350	320	269
合 計	730	602	495

ウ 介護者教室

事業所名		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
鬼無里	開催回数	3	3	3
	参加人数	49	30	48
大岡	開催回数	2	1	2
	参加人数	15	7	11
合計	開催回数	5	4	5
	参加人数	64	37	59

エ 介護予防教室

事業所名		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
鬼無里	開催回数	8	0	0
	参加人数	77	0	0
大岡	開催回数	6	7	7
	参加人数	51	82	62
合計	開催回数	14	7	7
	参加人数	128	82	62

資料④ (その他)介護等実習生の受入事業実績

学校名等	延べ人数	学校名等	延べ人数
長野県社会福祉協議会	31	信州スポーツ医療福祉専門学校	24
長野社会福祉専門学校	33	信濃の星	20
長野ビジネスアカデミー	5	長野看護専門学校	3
合 計			116(206)

※ () 内数字は、令和3年度